

平成24年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 平成25年5月11日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 協働事業報告書
 - ①応急手当の普及・啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・P2
 - ②朗読による平和推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・P13
 - ③「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座・・・・・・・・P21
 - ④高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業・・・・・・・・P29
 - ⑤みんなでつくる花いっぱい街づくり事業・・・・・・・・P37
 - ⑥市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化・・・・・・・・P47
 - ⑦小学生向け財政パンフレットの作成・・・・・・・・P56
 - ⑧「地域猫」への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・P64
 - ⑨一般家庭での生ごみ自家処理推進事業・・・・・・・・P81
 - ⑩里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立
（グランドワークの推進）・・・・・・・・・・・・・・・・P89
 - ⑪地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行・・P97
- 今後の事業のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・P105

平成 2 4 年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成 2 5 年 5 月 1 1 日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
1 4 : 0 0	協働事業報告会開会 ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
1 4 : 1 0	平成 2 4 年度実施事業の報告（プレゼンテーション） ※各事業ごとに報告発表（5 分）、審査員からの助言等（3 分） ◆行政提案型協働事業 ①応急手当の普及・啓発事業 ◆市民提案型協働事業 ①朗読による平和推進事業 ②「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座 ③高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業 ④みんなでつくる花いっぱい街づくり事業 ⑤市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化 ⑥小学生向け財政パンフレットの作成 ⑦「地域猫」への取り組み ⑧一般家庭での生ごみ自家処理推進事業 ⑨里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立（グランドワークの推進） ⑩地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行
1 6 : 3 0	閉会予定

平成24年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	ひらつか応急手当協力会	
団体代表者	小川 弘子	印
事業担当課名	消防救急課	
事業担当課長	飯山 光雄	印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	応急手当の普及・啓発事業		
事業開始年度	平成24年～	提案型	☐ 市民提案型協働事業 ☒ 行政提案型協働事業
事業費	230,600 円	内 訳	市の支出 182,000 円 団体の支出等 48,600 円
事業の概要	毎月9日に開催する一般市民対象の普通救命講習会や平塚市が開催する普通救命講習会等に応急手当普及員として参加し、市民に対し応急手当の普及・啓発を図り、平塚市における救命率の向上させることにより、平塚市民が安全に暮らせる安心な町づくりを目指しています。		
具体的な実施内容	普通救命講習会及び応急手当講習会に講師として参加し、受講者に対し心肺蘇生法やAEDの取り扱いの実技等を指導する。 ※ 24年度の予算について 24年度協力会参加人数が442人となり当初予測の324人を大幅に上回ってしまったため、報償費59,000円分が会員の持ち出しとなってしまった。 24年度協力会会員参加講習会受講者 普通救命講習会受講者 227人 応急手当講習会受講者 465人 <u>計 692人</u> 実施内容は別紙「24年度ひらつか応急手当協力会活動記録」のとおり		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

ひらつか応急手当協力会 24年度活動記録

回数	月	日	場所	内容	団体参加人数	行政参加人数
1	4月	1日	日枝神社	普通救命講習会	3	1
2		6日	平塚市役所	普通救命講習会	5	2
3		9日	消防本部	普通救命講習会	5	1
4		10日	小松湘南工場	普通救命講習会	3	2
5		15日	宮の前自治会	普通救命講習会	3	2
6	5月	1日	湘南養護学校	応急手当講習会	4	7
7		7日	勤労会館	普通救命講習会	2	2
8		8日	勤労会館	普通救命講習会	3	2
9		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	6	1
10		10日	青少年会館	普通救命講習会	1	2
11		11日	青少年会館	普通救命講習会	2	2
12		12日	田中貴金属	応急手当講習会	2	6
13		15日	小松製作所	普通救命講習会	2	2
14		17日	田中貴金属湘南工場	応急手当講習会	1	2
15		19日	消防本部	協力会研修会	7	2
16		23日	江南高校	応急手当講習会	3	2
17		27日	吉沢公民館	普通救命講習会	3	1
18		31日	博物館	普通救命講習会	1	2
19		31日	教育会館	普通救命講習会	1	2
20	6月	7日	平塚養護学校	応急手当講習会	2	2
21		8日	教育会館	応急手当講習会	2	3
22		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	8	1
23		13日	大野小学校	応急手当講習会	5	9
24		16日	特別警備保障	普通救命講習会	1	2
25		20日	特別警備保障	普通救命講習会	1	2
26		21日	特別警備保障	普通救命講習会	1	2
27		26日	青少年会館	普通救命講習会	4	1
28		27日	青少年会館	普通救命講習会	4	2
29		28日	青少年会館	普通救命講習会	3	2
30		30日	明石町保育園	普通救命講習会	1	2
31	7月	2日	つくし幼稚園	応急手当講習会	2	3
32		3日	青少年会館	普通救命講習会	2	3
33		4日	青少年会館	普通救命講習会	2	3
34		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	7	1
35		17日	平塚農業高校	応急手当講習会	2	2
36		18日	日産車体テクノセンター	普通救命講習会	1	2
37		19日	青少年会館	普通救命講習会	6	3
38		19日	南原小学校	応急手当講習会	4	11
39		20日	高浜高校	応急手当講習会	4	3
40		21日	保健センター	普通救命講習会	4	6
41		24日	貴峯荘	普通救命講習会	2	2
42	8月	5日	平塚商業高校	イベント	3	1
43		6日	第一三共プロファーマ	普通救命講習会	2	2
44		8日	なでしこ幼稚園	普通救命講習会	2	2
45		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	7	1
46		21日	岡崎公民館	普通救命講習会	2	2
47		22日	保健センター	普通救命講習会	2	2
48		24日	小松製作所	普通救命講習会	1	2
49		27日	平塚農業高校	応急手当講習会	2	3
50		28日	青少年会館	普通救命講習会	3	2
51		29日	ネットヨタ神奈川	応急手当講習会	2	2
52		30日	大野中学校	応急手当講習会	1	2
計					152	131

回数	月	日	場所	内容	団体参加人数	行政参加人数
53	9月	4日	平塚社会保険事務所	応急手当講習会	3	2
54		5日	美里幼稚園	応急手当講習会	2	2
55		6日	ひらおか幼稚園	応急手当講習会	2	1
56		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	5	2
57		9日	オリンピック(救急フェア)	イベント	3	4
58		10日	陽だまりの丘	普通救命講習会	1	2
59		11日	小松製作所	普通救命講習会	3	2
60		12日	日産車体第一工場	普通救命講習会	3	1
61		13日	高砂香料研究所	普通救命講習会	2	2
62		14日	平塚ふじみ園	普通救命講習会	2	2
63		18日	湘南地区県総合センター	普通救命講習会	3	1
64		19日	神奈川大学平塚キャンパス	イベント	3	1
65		20日	消防本部(女性防災リーダー)	普通救命講習会	1	1
66		21日	平塚ふじみ園	普通救命講習会	2	1
67		24日	社会福祉専門学校	普通救命講習会	2	2
68		26日	中央公民館	普通救命講習会	3	1
69		26日	中央公民館	普通救命講習会	2	1
70		28日	古河電工	普通救命講習会	2	2
71		30日	青少年会館	応急手当講習会	3	1
72	10月	2日	高浜高校	応急手当講習会	4	6
73		3日	高浜高校	応急手当講習会	4	6
74		4日	高浜高校	応急手当講習会	3	6
75		9日	消防本部(9に日講習)	普通救命講習会	7	1
76		10日	湘風高校	応急手当講習会	2	6
77		11日	須賀公民館	普通救命講習会	1	2
78		14日	消防3分団庁舎	応急手当講習会	2	1
79		16日	小松製作所	普通救命講習会	1	3
80		17日	湘南ホームフレンド	普通救命講習会	1	1
81		19日	八幡小学校	応急手当講習会	2	2
82		20日	保健センター	イベント	6	2
83		21日	日産車体第一地区	イベント	4	2
84		24日	関西ペイント	普通救命講習会	1	2
85		28日	高根自治会館	応急手当講習会	2	2
86		30日	青少年会館	普通救命講習会	2	2
87		30日	青少年会館	普通救命講習会	2	2
88		31日	青少年会館	普通救命講習会	3	1
89		31日	青少年会館	普通救命講習会	2	1
90	11月	2日	金目公民館	普通救命講習会	3	2
91		3日	青少年会館	普通救命講習会	2	6
92		4日	中原小学校	応急手当講習会	3	1
93		5日	西部福祉会館	普通救命講習会	2	2
94		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	8	1
95		9日	消防本部	協力会研修会	7	2
96		10日	高村保育園	普通救命講習会	2	1
97		13日	小松製作所	普通救命講習会	2	2
98		15日	貴峯荘	普通救命講習会	2	2
99		17日	青少年会館	普通救命講習会	3	2
100		24日	グランシアパーク自治会	応急手当講習会	1	2
101		26日	みずほ小学校	応急手当講習会	2	3
102		29日	ローズヒル	普通救命講習会	2	2
計					135	107

回数	月	日	場所	内容	団体参加人数	行政参加人数
103	12月	1日	三和ケミカル	普通救命講習会	3	2
104		3日	高根台ホーム	普通救命講習会	1	2
105		5日	三菱ガス化学	普通救命講習会	1	2
106		6日	市民活動センター	応急手当講習会	2	1
107		8日	大畑自治会	普通救命講習会	2	2
108		9日	消防本部(9の日講習)	応急手当講習会	6	1
109		10日	吉沢小学校	応急手当講習会	2	9
110		11日	小松製作所	普通救命講習会	1	2
111		13日	平塚農業高校	応急手当講習会	2	7
112		14日	平塚農業高校	応急手当講習会	2	7
113		15日	旭陵中学校	普通救命講習会	3	1
114		16日	グランライフデイサービス	普通救命講習会	2	1
115		17日	平塚農業高校	応急手当講習会	2	2
116		21日	県立ろう学校	応急手当講習会	4	7
117		25日	神奈中観光	普通救命講習会	1	2
118		26日	神奈中観光	普通救命講習会	1	2
119	1月	9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	6	1
120		15日	小松製作所	普通救命講習会	2	2
121		16日	土沢中学校	応急手当講習会	6	8
122		18日	吉沢公民館	普通救命講習会	1	2
123		21日	神奈中観光	普通救命講習会	2	1
124		22日	湘南地域県政総合センター	普通救命講習会	1	1
125		23日	国交省大磯出張所(唐ヶ原)	普通救命講習会	1	3
126		26日	花水公民館	応急手当講習会	2	2
127	2月	1日	県・社会福祉専門学校	普通救命講習会	2	1
128		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	7	1
129		10日	田村自治連合会	普通救命講習会	1	2
130		12日	小松製作所	普通救命講習会	2	2
131		15日	相模小学校	応急手当講習会	1	9
132		16日	サンレジデンス湘南	普通救命講習会	1	2
133		18日	高砂香料	普通救命講習会	1	2
134		20日	あさつゆ広場	普通救命講習会	2	2
135		21日	江陽中学校	応急手当講習会	6	9
136		22日	消防署大野出張所	普通救命講習会	2	2
137		23日	富士見公民館	普通救命講習会	3	2
138		24日	消防本部	応急手当講習会	2	2
139		26日	春日野中学校	応急手当講習会	5	8
140	3月	1日	平塚中等教育学校	応急手当講習会	3	6
141		2日	高村団地集会所	応急手当講習会	1	1
142		4日	平塚中等教育学校	応急手当講習会	4	6
143		5日	第一三共プロファーマ	普通救命講習会	1	3
144		6日	消防本部	協力会研修会	4	2
145		8日	平塚アリーナ	普通救命講習会	1	2
146		9日	消防本部(9の日講習)	普通救命講習会	3	1
147		10日	消防署大野出張所	普通救命講習会	3	1
148		12日	小松製作所	普通救命講習会	2	2
149		14日	古河電工	普通救命講習会	1	2
150		16日	ひらつかアリーナ	応急手当講習会	3	1
151		17日	パークサイド平塚自治会	応急手当講習会	2	1
152		17日	八幡自治会	普通救命講習会	1	2
153		18日	高砂香料	普通救命講習会	1	1
154		19日	神田中学校	応急手当講習会	7	7
155		21日	商工会議所	応急手当講習会	5	6
156		26日	花菜ガーデン	普通救命講習会	2	2
計					135	160

総計	442	398
----	-----	-----

平成24年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額（円）	決算額（円）	増減額（円）	具体的な内容（増減理由、収入内容・単価・数量等）
	市の支出	182,000 円	182,000 円		消耗品費 20,000 円（ユニフォーム購入費） 報償費 162,000 円（交通費）
	団体の支出	48,600 円	48,600 円		講習会時のお茶代
	事業収入				
② 支 出	収入合計	A 230,600	B 230,600	B－A 0	
	項 目	予算額（円）	決算額（円）	増減額（円）	具体的な内容（増減理由、支出内容・単価・数量等）
	報償費	162,000 (162,000)	162,000 (162,000)	0	交通費 講習会会場までの往復代
	需用費 消耗品費	20,000 (20,000)	20,000 (20,000)	0	講習会時着用ナイロンベスト
	食糧費	48,600 (0)	48,600 (0)	0	講習会時の飲料代
		()	()		
		()	()		
		()	()		
		()	()		
		()	()		
③	支出合計	C 230,600 (182,000)	D 230,600 (182,000)	D－C 0	
	収支決算額 B 230,600 円 － D 230,600 円 = 〇円				【備考】

※支出額の（ ）内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか応急手当協力会	☒ 団体 ☐ 行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	応急手当の重要性を多くの市民に広めることを目的に救命講習を通して共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	消防救急課が窓口となり受講生を募り、双方で準備及び講師としての役割ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	講習内容の統一を双方で協議し勉強会において技術向上を図った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	行政に対して勉強会の開催を依頼し講習会において学び得た技術等を市民に伝えることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	双方で実施することで希望に添える数多くの講習会に対応ができ、多数の受講生を受け入れることができた。 制度改正に伴い双方で専門的技術を共有できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	応急手当の普及・啓発を行い多くの市民に応急手当の重要性の理解をして頂くことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	講習会場までの交通費及びユニホームとしての経費であるが経費以上のサービスができたと思う。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	市民でもある応急手当普及員が講師を務めることで親しみ易く質問もしやすいとの評価を受けた。講習終了後も熱心に質問される方が徐々に増えてきている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	多くの人へ応急手当の技術が普及し、緊急時の対応ができる。
団体のメリット	行政が窓口となり広域から受講生を募ることができる。またガイドライン改正時にはいち早く技術を修得でき普及員各々がスキルアップできる。
市のメリット	多くの講習会の依頼に対応できる。また女性普及員が対応することで子供や女性に対して十分な指導ができる。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

☒ 今後も双方で実施（☒ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 行政が単独で実施

☐ その他（

☐ 休止または終了

☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

継続して行われる普通救命講習には今後も協力してやっていき、団体独自の講習等も考えている。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	消防救急課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	応急手当を普及することで、平塚市の安全安心を図ることを目的にお互いが救命講習を実施し共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	消防救急課は講習会の受付及び準備等を行い、団体が講習の準備及び講師としての役割分担が明確であった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	講習会を実施するための協議や講習内容等の個人差を埋めるため勉強会等を行い講師としての技術の統一を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	行政は団体の要望により勉強会等の開催を行い、団体は行政の要望により講習会に参加する等対等な立場で事業が実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	双方で実施することにより、数多くの講習会に対応できたことや、受講者100人以上の講習会の開催が実施できた。また、講習内容等の改正に対応する事ができ、専門的な技術を双方で共有する事ができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	平塚市が開催する普通救命講習の半数以上に参加し、応急手当の普及・啓発を行い目的である安全に暮らせる安心な町づくりに貢献することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	経費としては、団体の講習会場までの交通費及び受講者と講師を見分けるためのユニホーム等であるため、十分にサービスの提供ができています。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 応急手当指導員の資格を持った会員が講師を実施しているため、よく理解できた等の評価を得ることができた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	講習会の要望が複数あった場合に対応できるようになり、より多くの市民が講習を受講できるようになった。
団体の メリット	行政が講習申込みの調整を行うことにより、団体の信頼性が確保できることや、講習内容の改正等の指導を行政が行うことにより、団体のスキルアップができる。
市の メリット	団体が持つ専門的なノウハウを活用できることや、多数の講習会申込みに対応できる。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（■提案型 □提案型以外）

□行政が単独で実施

□その他（

□休止または終了

□団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

現在は行政が講習の申込み等を実施し団体に協力を依頼しているが、今後は団体独自での開催の検討を行う。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか応急手当協力会	担当課名	消防救急課
事 業 名	応急手当普及・啓発事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

行政と団体が協働して行うことで、行政は市民サービスの向上、団体は講習技術の向上など、お互いに協働で事業を行う利点がある。また、課題であった団体の会員も増員することができ、より一層事業の拡大が期待できる。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業の目的である、市民が安全に暮らせる安心な町づくりのために、行政と団体が協働して事業を実施することにより、行政は講習受講者の増員、団体は講習技術の向上等相乗効果があり目的は十分に達成できている。

費用については、団体の交通費等であるため費用対効果も十分である。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

協働事業を実施したことにより、行政は市民からの多数の講習会開催要望に対応できるようになり、市民は救命技術の習得、団体は行政との協働により信用性の向上や救命技術指及び改正の指導により個人のスキルアップを行うことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

講習会の申込みが多数となっているため、現在団体の負担が多くなっている。改善策として応急手当普及員の講習会受講者に団体への参加を促し団体の増員に努めている。

個人の講習技術の格差を埋め統一を図るため、勉強会の開催を行っている。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（■提案型 □提案型以外）

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

救命講習は救急隊が現場に到着するまでの救命処置を市民が行うことにより、救命率の向上を図るものであるため、市民の受講者を増やすことが必要となる。講習会を有料にすることで受講者の減少が懸念されるため、有料化による団体の自主財源の確保は難しいと考えている。

今後も双方で事業を実施することや団体独自の講習会を開催することで受講者の増員に努め平塚市における救命率の向上をめざします。

平成24年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	朗読「糸の会」	
団体代表者	野口桂子	印
事業担当課名	指導室	
事業担当課長	深谷 昇平	印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	朗読による平和推進事業		
事業開始年度	平成 24 年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	191,500 円	内 訳	市の支出 170,000 円 団体の支出等 21,500 円
事業の概要	戦争を知らない世代へ命と平和の尊さを伝えるため、学校教育の一環として、平和の推進をテーマに朗読による公演を行う。		
具体的な 実施内容 実施年月日、実施 内容、参加者等 を ご記入ください。	① 糸の会と指導室の打ち合わせ（会合、電話、メール等 63 回程度） ・公演日の調整 ・公演内容の選定 ・学校に依頼する内容について ② 実施校での打ち合わせ（実施校、糸の会、指導室で公演についての確認） （春日野中 H24. 3. 5 松原小 H24. 5. 23 旭小 H24. 10. 29） ・実施日時について ・プログラムについて ・必要備品について ③ 「平和の集い」公演実施 ・春日野中公演 (H24. 4. 9) ・松原小公演 (H24. 9. 24) ・旭小公演 (H24. 12. 12)		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成 24 年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	170,000	170,000		報償費 150,000 円 負担金 20,000 円
	団体の支出	27,500	21,500	-6,000	積立金 (300 円×15 名×4 ヶ月+3,500 円)
	事業収入				
	収入合計	A 197,500	B 191,500	B-A -6,000	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	謝金	170,000 (150,000)	170,000 (150,000)		演奏者謝礼 50,000 円×3 回 脚本演出指導 20,000 円
	交通費	22,500 (20,000)	21,500 (20,000)	-1,000	出演者交通費 500 円×15 名×2 回+500 円×13 名×1 回
	著作権料	5,000 ()	0 ()	-5,000	
		()	()		
		()	()		
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 197,500 (170,000)	D 191,500 (170,000)	D-C -6,000	
③	収支決算額 B 191,500 円 - D 191,500 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	朗読「糸の会」	■団体 □行政
事業名	朗読による平和推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	事業の成果として公演終了後生徒、保護者、先生方に感想を提出していただいた。 その結果、予測以上の成果を得ることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	音楽演奏のプログラムにおいて演奏者より生徒と合唱の提案があった。担当課はすぐに学校と連絡を取り選曲・楽譜の手配などを行い事業の効果的かつ円滑な運営ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	相互の役割を理解し十分な話し合いを持って事業を実施することができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	担当課より適切なアドバイスがあり、円滑に事業を行うことができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	学校における事業なので公演時間の設定、プログラムに対しての学校の意向など事前の調整が必要であった。 また保護者に呼びかけ、参加を募ることが出来た。 事業は糸の会単独では成し得なかった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	生徒が本来の目的である戦争の悲惨さや命の大切さを十分理解してくれただけでなく、身近なペットなどの小さな命を大切にする事・食べ物を大切にする事などに気づいていた。意図した以上の成果を得た。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	音楽演奏により事業の目的を生徒により印象深く伝えることができた。 生徒がハーブに触れ、音を出す機会を持った、またハーブとシンセサイザーの伴奏による合唱ができ印象深い思い出となった。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 公演終了後、参加者に感想を提出していただいた。その内容により授業で学んだ以上に戦争の悲惨さ、命の大切さ、戦争を語りついで行くことの重要性などがわかった等の感想を得ることができた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	戦争に関する作品の朗読・演奏を聴く事により平和の大切さを学ぶことができた。
団体の メリット	生徒に事業の趣旨を伝えるにあたり学校から活動の場の提供を受けられた。
市の メリット	生徒に朗読・演奏という手段で戦争の悲惨さ・命の大切さを効果的に解りやすく伝えることが出来た。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 行政が単独で実施

☐ その他（

☒ 休止または終了

☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては継続しないが、糸の会が毎年行っている発表会の中で平和推進事業の趣旨に沿った作品を朗読することにより糸の会のテーマとして引き続き取り組んでいく。また学校からの依頼があれば積極的に対応していきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	教育委員会 学校教育部 指導室	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	朗読による平和推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	戦争を知らない子どもたちに、戦争の悲惨さ、平和の大切さを、朗読を通して伝えるという目的を共有しながら事業に取り組むことができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	団体は、公演に向けての準備をしっかりと行い、公演において命や平和の大切さを伝えることができた。行政は、団体と学校との橋渡し役となり、双方にとって有益な公演となるように調整を行った。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	必要に応じて、電話、メール、面談等で意見交換を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	連絡を密に取ることによって、団体と行政の双方とも目的に向けて対等に協力し合うことができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体が朗読公演を行うことにより、子どもたちに効果的に平和の大切さを伝えることができた。また、協働事業で取り組んだことにより、各学校の公演希望を取りやすくなった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	小中学生に「朗読」を通して平和の大切さを訴えることは、子どもたちの心に残る活動だったと考える。また、各学校での講演の際には保護者の参観もあり、広く目的を達成することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	朗読公演において、ハーブやシンセサイザーとのコラボレーションを行ったが、その効果により子どもたちの心に直接響く公演となった。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 参加者から、「命の大切さがわかった」「戦争のことはよくわからなかったが、この公演でその悲惨さが伝わった」「ハーブとシンセサイザーの音色に癒された」等の感想があり、団体と行政の思いが伝わったと考える。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	戦争についての朗読を聴くことにより、平和の大切さを学んだり、命の尊さについて考えたりする機会を得ることができた。
団体の メリット	朗読を通して平和の大切さを伝える場が提供された。
市の メリット	子どもたちや参加者に「命の尊さ」「平和の大切さを」伝えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 行政が単独で実施

☐ その他（

☒ 休止または終了

☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては、今年度終了するが、朗読は子どもたちに平和の大切さを伝える手段としてとても効果的なので、学校からの要望があれば公演が実施できるよう団体と調整を行っていきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	朗読「糸の会」	担当課名	学校教育部 指導室
事 業 名	朗読による平和推進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

戦争を知らない子どもたちに、戦争の悲惨さ、平和の大切さを、朗読を通して伝えるという目的を共有し、その達成のために、協議を重ねた。それぞれの役割をしっかりと果たしたことで、より効果的に事業を行うことができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体と担当課の双方が、同じ目的意識を持って取り組んだことにより、小中学生に対して戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えることができた。本事業の目的は達成できたと考える。

当日は、朗読にハープやシンセサイザーが効果的に加わったことにより、子どもたちの心に直接響く公演となった。またハープとシンセサイザーの伴奏による合唱もでき、印象深い思い出となった。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

協働事業として取り組んだことで、団体は学校で講演を行う機会ができ、子どもたちに平和の大切さを訴えることができた。

また、子どもや参加者にとって、朗読という形式はわかりやすく伝わりやすいので、より心に響き、改めて命の大切さについて考える機会を作ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

公演日や公演時間を学校の希望にできるだけ沿うように実施したため、調整が難しかった。そのため、なるべく早い時期に学校との打ち合わせを行い、対応ができるようにした。

また、会場が体育館や公民館で、事前にリハーサル等を行うことができず、当日時間のなかでマイク等の音響の調整を行ったことが大変だった。これについても、下見や打ち合わせを念入りに行うことにより、対応することができた。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☒ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

☐ その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては終了するが、糸の会が毎年行っている発表会の中で平和推進事業の趣旨に沿った作品を朗読することにより糸の会のテーマとして引き続き取り組んでいく。また学校からの依頼があれば積極的に対応していきたい。

指導室としても、朗読は子どもたちに平和の大切さを伝える手段としてとても効果的なので、学校からの要望があれば公演が実施できるよう団体と調整を行っていきたい。

平成 24 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平 塚 市 長

団 体 名	NPO 法人ひらつか IT サポート		
団体代表者	鈴木 敏介		印
事業担当課名	中央公民館		
事業担当課長	大津 修		印

平成 24 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座		
事業開始年度	平成 24 年	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	212,200 円	内 訳	市の支出 102,400 円 ----- 団体の支出等 109,800 円
事業の概要	団塊世代や中高年層を中心に、デジタルカメラ撮影写真等を題材としたパソコンの技術習得及び地域活動における情報発信等に活用するための講座を実施する。また、終了後は地域活動への参加のきっかけづくりとともに、習得内容を活用した広報及び情報発信に向けた活動、並びに継続した学習と技術の習得を希望する参加者に対する支援等を図るものとする。		
具体的な実施内容	(1) 実施時期 平成 24 年 7 月、9 月、11 月、12 月 (2) 講座Ⅰ「カレンダーを創ろう」、講座Ⅱ「ブログで情報発信をしよう」、講座Ⅲ「スライドショーを創ろう」の 3 講座のうち、各ブロックで 2 講座を行う。 又各々の講座は「3 時間、募集人員 10 名、参加費 1000 円/人」構成とした。 (3) 講座開催 ①南ブロック：2012/7/14&28 富士見公民館：講座＝ブログ＆カレンダー お申込み件数＝39 名（参加者＝19 名） ②東ブロック：2012/9/8&22 中原公民館：講座＝カレンダー＆スライドショー お申込み件数＝17 名（参加者＝20 名） ③北ブロック：2012/11/10&17 神田公民館：講座＝ブログ＆スライドショー お申込み件数＝23 名（参加者＝20 名） ④西ブロック：2012/12/1&8 金目公民館：講座＝ブログ、スライドショー お申込み件数＝34 名（参加者＝19 名） <参考>お申込み件数から、まだまだニーズは有ると予想。参加者は抽選により決定された。 (4) 成果物 ①講習会テキスト×3 種類 ②講習会チラシ×4 種類（公民館ブロック別） ③公民館だより原稿×1 種類 ④ちいき情報局に掲載（神田） ⑤ 湘南ケーブル TV 放送（『公民館へ行こう』内）で放映		

業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成 24 年度実施協働事業 決算報告書

① 収入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	103,800	102,400	-1,400	指導料 88,800+LAN 設備 13,600
	団体の支出	27,200	31,800	4,600	
	事業収入	80,000	78,000	-2,000	1,000 円 x 10 名 x 2 講習 x 4 ブロック-1,000 円 x 2 名 (キャンセル)
	収入合計	A 211,000	B 212,200	B-A 1,200	
② 支出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	講師代	108,000 (88,800)	108,000 (88,800)	0	指導費=1000 円 x 4 時間 x 3 名 x 2 講習 x 4 ブロック、交通費=500 円 x 3 名 x 2 講習 x 4 ブロック
	印刷代	40,000 (0)	12,600 (0)	-27,400	ブログ= (15p x 12 部 x 10 円) x 3、カレンダー&スライド= (12p x 12 部 x 10 円) x 5
	講習設計費	10,000 (0)	20,000 (0)	10,000	テキスト作成費：3,000 円 x 3+同改版 3,000 円 x 2、チラシ：5,000 円
	プロジェクト	38,000 (0)	56,000 (0)	18,000	リーダー：8,000 円 x 1 名、参加者：6,000 円 x 8 名
	その他	0 (0)	2,000 (0)	2,000	CD-R (「スライドショーを創ろう」で参加者に提供)
	LAN 設備	15,000 (15,000)	13,600 (13,600)	-1,400	HUB+LAN ケーブル
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 211,000 (103,800)	D 212,200 (102,400)	D-C 1,200	
③	収支決算額 B 212,200 円 - D 212,200 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	中央公民館 NPO 法人ひらつか IT サポート	☒ 団体 ☐ 行政
事業名	「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	協働契約書作成や、中間ヒヤリング時等、両者が目的を認識する機会を充分活用し、目的の共有化に努めた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	当初事業計画通り実施でき、大きな課題も無かった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	事業担当課とは、企画期間（講習会前）は1回/月の定例会議を、実施期間（講習実施期間）は必要時に協議する機会を作り推進した。講習会開催公民館と企画段階から参画して頂いておけば、意見も頂けたかと感じた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施できましたか。	4	協働事業の前工程では、市側がお金を支払う優位な立場で対応される事は無く、一方団体側は事業企画側として行動しがちであったが、それ以上でも以下でも無く、又後工程（講習会実行程）は一体となって推進できたので、全体として、対等な立場で推進できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られましたか。	5	団体のメリットに記載されている通り、団体単独では実施出来なかった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート



B : 「相互」評価シート



C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	① 開催講座：4ブロックの公民館で8講座を開催、参加者＝78名、参加率＝98%≒100% ⇔目標達成 ② 講習内容の活用：講座終了後の学習支援、地域活動支援の一環として、「公民館PCサークルの紹介」「PC無料相談会の紹介」「ちいき情報局の紹介」を推進したが、効果は未知数。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	経費総合計（212,200円）÷参加者（78名）＝2,720円/人。言い替えると受講者は1000円の受講料を支払い、2,720円のサービスを受けた。事業の目的達成度や受益者の満足度及び市場価格に比べて安価な講習会コスト構造からも、十分な費用対効果が得られた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など ・41人/77人から「大変役立った」、31人/77人から「役立った」の評価を頂いた。（合計94%） [アンケート結果による]

(3) 実施したメリット

市民のメリット	・講座は大変役にたった。（アンケートによる） ・公民館でデジタル写真の活用技術、地域活動に活かせる講座を安価に受講できた。
団体のメリット	・公民館を活動の場として利用可能となり、より大きな地域貢献活動を実施できた。 ・団体の認知度向上が図れた。
市のメリット	団体の公民館でのIT指導実績やノウハウを活かして地域活動へつなげる講座を実施することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

収支予算の計上と査定、評価は公開されるが、決定額に対しては、決定者の顔が見えない。
予算（お金は）は協働推進課が持つべきと思います。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 行政が単独で実施

☒ その他（

☐ 休止または終了

☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業とはせず、平成24年度の結果や、その他の案件を含め、中央公民館にお願いし、各公民館＆地区ブロックへ提案を行う。具体的には「パソコン弱者向けサークル参加支援」と「パソコン講習会企画（8企画）」を提案させて頂いた。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	社会教育課（中央公民館）	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	打ち合わせを重ねて目的を十分協議したことにより、協働契約書作成や中間ヒヤリング等でも双方が目的の共有を確認することができ、また講座実施の際にも双方から参加者へ伝えることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	分担した役割をほぼ計画どおり実施することができ、特に問題もなかった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	検討スケジュールを基に定期的に打ち合わせを行い、双方の意見をすり合わせたり詳細を決定したりするのに十分協議を行った。事業を実施する各ブロックには中央公民館から事前に目的の共有を図るとともに、事業実施前には各ブロックと団体との直接の打ち合わせも行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	協働事業ということで、双方の役割をお互いが認識、理解し、どちらが上位ということなく対等な立場で協議を重ね、事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	公民館単独では機器の準備が難しく、講座内容の設定にも苦慮するところだが、団体の持つ技能やノウハウの活用や機器類の提供を受け、公民館側では地域へのつながりを活かした事業の周知を行うことにより、地域貢献のきっかけとするための講座が実施できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート



B : 「相互」評価シート



C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	・全4ブロック8講座とも定員を超える応募があり、予定どおりの参加を得られた。 ・事業名と事業の目的に基づき、参加者が地域貢献や活動の周知につなげるためのスキル修得を図れた。 ・講座終了後の学習支援や「ちいき情報局」についての案内を行ったが、今後どのように取り組みを進め、地域活動へつなげていくのかが課題となる。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	・講座受講者は教材費のみで受講でき、単なるパソコンスキルの習得にとどまらず、地域や団体の活動に活かすための学習ができた。 ・事業実施主体は、双方とも相応の負担により事業が実施できた。また、事業の目的・目標に基づいて地域活動や地域貢献を意識した事業展開を図れた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など ・習得の満足度が高く、今後の地域活動や団体活動、地域貢献への関心が高いことがうかがえた。（アンケートでは、94%から「大変役立った」役立った」の評価を得た。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	地域活動や公民館活動、団体活動等において情報発信するための技術を習得するとともに、パソコン活用による活動PRと地域貢献への理解を得る機会となった。
団体のメリット	団体がこれまで公民館で講座やサークルを指導してきた実績や専門性を十分活かして、地域貢献につなげるための活動を行うことができた。
市のメリット	地域活動へつなげるきっかけとする講座を実施することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

どうしても事務手続きが多くなるとともに煩雑なため、事業実施前・中・後において事務処理に時間を要する。また、本来の実施事業のための集中ができないことがある。

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
 ☐ 休止または終了
☐ 行政が単独で実施
 ☐ 団体が単独で実施
☒ その他（ 公民館事業での依頼や新たな学習グループへの活動支援依頼 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業とはせず、団体の持つ講座プログラムのメニューを公民館に提供し、地域の実情や活動状況に応じた講座の実施検討や、事業実施後の学習活動への支援協力を依頼していきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	NPO 法人ひらつか IT サポート	担当課名	中央公民館
事 業 名	「デジカメとパソコンでできる！地域貢献」講座		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

【役割分担】特段大きな差異は無かったが、講習会場で受付や会場設営等で効率の観点から、役割分担を変更して対応させて頂いた。

【対等な立場】設問の狙いについて認識合わせを行った後、自己評価シートを元に意見交換を行った。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

特別に無し

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

事業の目的・目標が充分共有出来ており、「市民・団体・市のメリット」について、団体、担当課とも同様の認識であった。

(4) その他、課題やその改善方法など

【担当課の意見】

どうしても事務手続きが多くなるとともに煩雑なため、事業実施前・中・後において事務処理に時間を要する。また、本来の実施事業のための集中ができないことがある。

【団体の意見】

収支予算の計上と査定、評価は公開されるが、決定額に対しては、決定者の顔が見えない。予算（お金は）は協働推進課が持つべきと思います。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

☒ その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

【担当課】協働事業とはせず、団体の持つ講座プログラムのメニューを公民館に提供し、地域の実情や活動状況に応じた講座の実施検討や、事業実施後の学習活動への支援協力を依頼していきたい。

【団体】協働事業とはせず、平成 24 年度の結果や、その他の案件を含め、中央公民館にお願いし、各公民館&地区ブロックへ提案を行う。具体的には「パソコン弱者向けサークル参加支援」と「パソコン講習会企画（8 企画）」を提案させて頂いた。

平成24年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平 塚 市 長

団 体 名	湘南の森	
団体代表者	岩澤 由美子	印
事業担当課名	みどり公園・水辺課	
事業担当課長	齊藤 義行	印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業		
事業開始年度	平成24年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	133,900 円	内 訳	市の支出 133,900 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	本事業では、高麗山公園ハイキングコースを中心に、その植生を調査し、当該エリアの特性・課題を明らかにし、これを発信することを目的とした。具体的には、エリア内の樹木の健康度判定、GPS測量による場所の把握、ゾーニングによるエリア特性の評価、これらを踏まえた行政施策の提言とこれをまとめた報告書の作成を行った。		
具体的な実施内容	4月 1日：協働契約締結（市、団体） 5月19日：樹高や胸高直径などの測定法等の研修会（団体、専門家） 6月 6日：現地下見（市、団体） 6月 8日：浅間山地域調査（団体、委託業者） 6月23日：浅間山地域、中央地域調査（団体、委託業者） 7月13日：ヤブラン平地域調査（団体、委託業者） 7月28日：中央地域調査、コースルートのトレース（団体、委託業者） 8月10日：測量結果ミステック（団体、委託業者） 9月21日：測量結果データトレース（市、委託業者） 10月 5日：樹木医診断（団体、専門家） 11月28日：植生遷移調査（団体、専門家） 1月25日：報告書作成打合せ（市、団体） 2月19日：報告書完成、WEB ページ掲載（市） 実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成24年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	133,900 円	133,900 円	0 円	
	団体の支出				
	事業収入				
	収入合計	A 133,900 円	B 133,900 円	B - A 0 円	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	専門家派遣報償費	33,900 円 (33,900 円)	33,900 円 (33,900 円)		①森林調査法講義②樹木診断③森林遷移診断 11,300×3 回
	G P S 測量業務委託	79,000 円 (79,000 円)	79,000 円 (79,000 円)		G P S 測量にとる対象樹木の座標取得 一式
	データトレース業務委託	21,000 円 (21,000 円)	21,000 円 (21,000 円)		地図上の等高線などの不要なデータの削除 一式
		()	()		
		()	()		
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 133,900 円 (133,900 円)	D 133,900 円 (133,900 円)	D - C 0 円	
③	収支決算額 B 139,000 円 - D 13,900 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	市民団体・「湘南の森」	■団体 □行政
事業名	高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	市民のための、より豊かな森を目指すという目的は十分共有されたと思います。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	市側が私たちの目的・手段を理解してくれて、作業推進のための、さまざまなサポートを的確かつ迅速に実施してくれたので、お互いの役割分担はうまくいったと思います。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	面談あるいはメールを通じて、十分な協議が出来たと思います。双方の立場・特性については理解に努めましたが、バックグラウンドが大きく違うために、必ずしも十分でなかった面もありました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	市側には当団体のこれまでの実績を十分理解頂き、対等な立場のパートナーとしてのお付き合いをさせて頂きました。こちらにも遠慮せずに、報告・連絡・相談をさせて頂きました。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	双方の立場や視点が盛り込まれて、より視野の広い調査結果を提言出来たと思います。波及効果は、この提言をいかに実施してゆくか、そして、それが豊かな森への道筋に反映されてゆくことだと思います。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	この森の今後の育成方針・具体的対策等が明確に示されたと思います。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	外注部分以外は、全て当団体のボランティアとして実施され、それぞれの分野の専門家の技術的レベルもかなり高いと評価されるので、仮に全部を外注した場合と比較した費用対効果は非常に大きいと考えます。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）		受益者の満足度は、本調査結果を具体的に現地に反映された時に期待出来るものであろう。 市側が本結果をすみやかにホームページにアップしたことは、評価されるべきことで、いずれ、市民からの反応が出てくるものと期待される。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	市民は、高麗山公園ハイキングコースが持つ森林資源としての特性・価値を、本事業の成果品である報告書に目を通すことにより客観的に享受することができた。
団体の メリット	団体は、行政が持つ情報の共有、資金面を含めた作業面の便宜供与、市民からの信頼性の向上などのメリットを受けた。
市の メリット	市は、団体が長年集積してきた当該地域の情報、ノウハウ、作業に必要なマンパワーなどのメリットを受けた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐行政が単独で実施

☐その他（

☐休止または終了

☐団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

報告書に基づいた事業を任意の協働事業として双方で展開していく。具体的には、罹患しているソメイヨシノの伐採、ヤマザクラの植栽、報告書の内容の情報発信、協働を包含した保全スキームの確立などについて、事業を展開していく。財源については、民間補助制度の利用や、市でみるのが可能な経費がないか、再度、検討していく。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市みどり公園・水辺課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	団体の方では、元々、実際の作業的な協働事業を希望していたかと思うが、客観的事実の調査からという市の意向をよく理解していただけたかと思っている。その結果、今までにない資料が成果品として提出された。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	得意分野で役割分担がうまくなされたと思っている。 年間を通して、非常にスムーズに事業が進行し、当初の計画よりも早く成果品が完成した。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	3	概ね理解していたが、専門家派遣の実施内容等、事後に理解したものもあるので、もう少し、市から積極的に協議を依頼すべきだった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	力のある団体だと考えていたため、安心して業務遂行を見守ることができ、不要な指導などをする必要もなく、良い関係が保てた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	費用対効果が高く、相互効果は十分に得られたと考えている。波及効果については、今後の周知の仕方などによっても考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	目的は十分に意識し、達成できたと考えている。数値目標（樹木の伐採と植林）については、今年度の達成ではなく、来年度以降に達成していくようなスケジュールとなっている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	少ない予算で良い成果品ができたと考えている。植林の伐採や植林も重要だが、成果品をベースとしたソフト事業などが考えられれば、今後、さらなる費用対効果を得られると考えられる。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）		※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など

(3) 実施したメリット

市民の メリット	市民は、高麗山公園ハイキングコースが持つ森林資源としての特性・価値を、本事業の成果品である報告書に目を通すことにより客観的に享受することができた。
団体の メリット	団体は、行政が持つ情報の共有、資金面を含めた作業面の便宜供与、市民からの信頼性の向上などのメリットを受けた。
市の メリット	市は、団体が長年集積してきた当該地域の情報、ノウハウ、作業に必要なマンパワーなどのメリットを受けた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐行政が単独で実施

☐その他（

☐休止または終了

☐団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

報告書に基づいた事業を任意の協働事業として双方で展開していく。具体的には、罹患しているソメイヨシノの伐採、ヤマザクラの植栽、報告書の内容の情報発信、協働を包含した保全スキームの確立などについて、事業を展開していく。財源については、民間補助制度の利用や、市でみるのが可能な経費がないか、再度、検討していく。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	湘南の森	担当課名	みどり公園・水辺課
事 業 名	高麗山公園ハイキングコース等植生調査事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

全体としては、協働らしい事業ができたのではないかと考えている。お互いの長所を活かした役割分担で成果をあげることができたと感じている。内容が専門的であったことから、もう少し協議を密にできれば、なお良かった。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

少ない予算で、大きい成果を出すことができたと考えている。受益者サービスについては、現在のところ、ホームページでの内容報告など、調査内容の周知を図っている。今後、緑化まつりでのさらなる周知や、次のステップとして、森林の改善を進めていけば、大きな受益者サービスにつながると考えている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

メリットについては、事業計画書で掲げたものの達成ができたのではないかと両者ともに考えている。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

☐その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

報告書をいくつかの提案で結んだので、その提案内容について、実施が可能か十分に協議し、協働で実行していきたい。団体は、民間企業が募集している基金への応募を既に行っており、自主財源の確保に動き出している。実施内容が公園維持管理であるものについては、市の予算も充当しながら、無理のないように行っていきたい。

平成 24 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平 塚 市 長

団 体 名	明日の金田を創る会		
団 体 代 表 者	山村 高治		印
事業担当課名	農水産課		
事業担当課長	小泉 宏		印

平成 24 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事 業 名	みんなでつくる花いっぱい街づくり事業		
事業開始年度	平成 24 年度年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事 業 費	232,316 円	内 訳	市 の 支 出 211,856 円 ----- 団体の支出等 20,460 円
事業の概要	(1) ひらつか花アグリを訪れる者を花で出迎えるとともに、地域住民に親しまれる拠点とするため、花のある景観づくり事業を継続した。 (2) 花いっぱいの街づくりを地域住民と進めるため、ざる菊の里子活動、花のある景観づくり事業の鑑賞会、アンケートの実施、地域拠点へのプランター設置などの事業を実施した。		
具 体 的 な 実 施 内 容 実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。	別紙「平成 24 年度 活動記録簿」のとおり		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

(平成24年度実施)協働事業 意見交換・活動記録簿

事業名	みんなでつくる花いっぱいの街づくり事業				
-----	---------------------	--	--	--	--

年	月	日	場所	内容	出席者	
					団体	担当課
平成24年	4	11	農の体験・交流館	意見交換	山村、石山	嶋崎
	4	20	金田公民館	役員会	13名参加	
	4	20	農水産課	意見交換	山村	嶋崎
	4	30	古川排水路沿い	草取り、花管理、ざる菊苗育苗、芝桜・グラジオラス植え付け	30名参加	
	5	12	市民活動センター	協働事業報告会	山村	嶋崎
	5	22	農水産課	意見交換	山村、石山	嶋崎
	6	5	古川排水路沿い	草取り、花管理、ざる菊植え付け	25名参加	
	6	15	農の体験・交流館	意見交換	山村、澤田石	嶋崎
	6	20	農の体験・交流館	役員会(ボランティア集会について)	5名参加	
	6	30	金田公民館	ボランティア全体集会	30名参加	
	7	3	農の体験・交流館	菊の鉢上げ(会員配付用)	5名参加	
	7	8	農の体験・交流館	草取り、花管理、ざる菊配付(会員)	30名参加	
	7	11	農の体験・交流館	菊の鉢上げ(地域拠点配付用)	3名参加	
	7	14	市民活動センター	ユースボランティアオリエンテーション	2名参加	
	8	5	古川排水路沿い	水やり、草取り、花管理、ユースボランティア9名受け入れ	30名参加	
	8	7	長寿会長宅	長瀬地区拠点設置協議	山村、石山、草野	
	8	21	農の体験・交流館	意見交換(中間ヒアリング・今後の計画について)	山村、石山、澤田石	嶋崎
	8	21	金田小学校への通学路	ざる菊の定植	4名参加	
	8	23	農水産課	意見交換(中間ヒアリング・今後の計画について)	山村	嶋崎
	8	26	市民活動センター	ユースボランティア報告会	3名参加	
	8	30	農の体験・交流館	意見交換(中間ヒアリングについて)	山村、石山、澤田石	嶋崎
	9	1	古川排水路沿い	水やり	5名参加	
	9	4	市民活動センター	協働事業中間ヒアリング	山村、石山、澤田石	嶋崎
	9	9	古川排水路沿い	水やり、草取り、花管理	26名参加	
	9	27	農の体験・交流館	意見交換(視察研修会について)	5名参加	
	10	2	南足柄市	視察研修事前調査	4名参加	嶋崎
	10	6	古川排水路沿い	水やり、草取り、花管理	27名参加	
	10	11	農の体験・交流館	意見交換(アンケートについて)	山村、石山、澤田石、根岸	嶋崎
	10	15	農の体験・交流館	意見交換(視察研修会細部検討)	山村、石山、澤田石、根岸	嶋崎
	10	18	平塚養護学校・つくし保育園等	各拠点に30鉢のざる菊を設置	2名参加	
	10	22	農の体験・交流館	意見交換(視察研修会細部検討)	山村、石山、澤田石、根岸	嶋崎
	10	27	農の体験・交流館	大収穫祭でのPR活動(ざる菊・活動写真展示)、アンケートを実施	3名参加	
	10	29	古川排水路沿い	ざる菊鑑賞会	16名参加	
	10	29	二宮市	ざる菊園視察	5名参加	
	10	31	農の体験・交流館	意見交換(次年度の取り組む方向について)	5名参加	
	11	3	古川排水路沿い	草取り、花管理、パンジー植え付け	26名参加	

(平成24年度実施)協働事業 意見交換・活動記録簿

事業名		みんなでつくる花いっぱい街づくり事業				
平成24年	11	5	農の体験・交流館	意見交換(次年度の取り組む方向について)	山村、石山、澤田石	嶋崎
	11	8	南足柄市	ざる菊視察研修	33名参加	
	11	21	各ボランティア宅	アンケート用紙配付	3名参加	
	11	23	農の体験・交流館	意見交換(次年度の取り組む方向について)	山村、石山、澤田石	
	11	29	二宮市	ざる菊園視察	5名参加	嶋崎
	11	30	農の体験・交流館	役員打合せ	山村、石山、澤田石	
	12	1	古川排水路沿い	草取り、花管理、アンケート回収	20名参加	
	12	13	農の体験・交流館	意見交換(アンケートの集計について)	山村、石山、澤田石	嶋崎
	12	26	農の体験・交流館	意見交換(アンケートの集計について))	山村、石山、澤田石	嶋崎
平成25年	1	11	金田公民館	公民館まつり打合せ	3名参加	
	1	13	古川排水路沿い	草取り、花管理	20名参加	
	1	21	古川排水路沿い	花桃、椿の植栽	7名参加	
	1	29	農の体験・交流館	意見交換(執行状況について)	山村、石山、根岸、澤田石	嶋崎
	2	2	古川排水路沿い	施肥	7名参加	
	2	21	農の体験・交流館	意見交換(公民館まつりについて)	山村、石山、根岸、澤田石	嶋崎、望月
	2	21	古川排水路沿い	草取り、花管理、施肥、パンジー植え付け	21名参加	
	2	28	金田公民館	公民館まつり準備	4名参加	
	3	1	金田公民館	公民館まつり準備	4名参加	
	3	2	金田公民館	公民館まつりで展示とPR活動	4名参加	
	3	3	金田公民館	公民館まつりで展示とPR活動、撤収	4名参加	
	3	7	農の体験・交流館	意見交換(執行状況について)	山村、澤田石	嶋崎、望月
	3	10	古川排水路沿い	草取り、花管理、花桃支柱立て	22名参加	
	3	19	農の体験・交流館	意見交換(活動報告会について)	山村、石山、根岸、澤田石	嶋崎
	3	27	寺田縄自治会館	活動報告会	26名参加	樹本、嶋崎、望月
	3	31	古川排水路沿い	パンジー植え付け	3名参加	
	3	31	農の体験・交流館	役員会	4名参加	
平成24年	7	3	農の体験・交流館	菊の鉢上げの灌水(毎日)		
		5				
	7	8				
	7	11				
		5				
	10	18				

平成 24 年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	211,856	211,856	0	
	団体の支出	0	18	18	利子収入
	事業収入	25,000	20,442	▲4,558	ざる菊里子活動による自主事業費
	収入合計	A 236,856	B 232,316	B - A ▲4,540	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	育苗ハウス購入費	35,000 (35,000)	26,881 (26,881)	▲8,119	規模を予定よりも小さくし、材料費を抑えた
	プランター購入費	44,000 (44,000)	43,565 (43,565)	▲435	
	花類植栽経費	50,000 (50,000)	54,850 (54,850)	4,850	パンジー、ビオラ等の花の苗、種 【草刈り経費を流用して、パンジー・ビオラ等の花の苗、種を購入し、古川排水路沿いと県道残地の花の数を当初の予定より増やした】
	土づくり経費	25,700 (25,700)	32,629 (32,629)	6,929	堆肥、化成肥料 【土壌の栄養分が不足していたため、予定よりも多く肥料を入れた】
	揚水ポンプ賃借料	10,000 (10,000)	7,575 (7,575)	▲2,425	
	畑賃借料	8,956 (8,956)	5,550 (5,550)	▲3,406	
	作業時飲料費	25,000 (0)	20,191 (0)	▲4,809	お茶、紙コップ 【現場作業時の飲み物購入に使用】
	草刈り経費	38,200 (38,200)	41,075 (40,806)	2,875	刈払機燃料費に加え、ボランティア用の鎌等を購入したため
	支出合計	C 236,856 (211,856)	D 232,316 (211,856)	D - C ▲4,540	
③	収支決算額 B 232,316 円 - D 232,316 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	明日の金田を創る会	■団体 □行政
事業名	みんなでつくる花いっぱい街づくり事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	平成21年度から計4年間、協働事業を実施しており、事業の目的は共有できていると感じる。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	しっかりと役割分担ができ、スムーズに事業を実施することができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	今後の計画や視察研修及びアンケート実施などについて、十分に協議を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	話し合いを重ねることで、お互いの立場や考え方を理解することができ、共通の視点で事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	会の活動や方針を、広報を通じて広く知ってもらうことができ、共感した人（会員）が徐々に増えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	毎回、20～30 名程度のボランティアが活動に参加するなど、地域のふれあいの場が生まれている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	毎月1～2回、花の植栽・管理をしており、経費に見合うサービスは提供できている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市が主催する大収穫祭で、来場者にアンケートを取り、満足の高い評価を頂いた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	近所の人や花菜ガーデンを訪れた人が、古川排水路沿いを歩き、花を楽しんでいる。
団体の メリット	毎回 20～30 名程度のボランティアが活動に参加するなど地域のふれあいの場が生まれている。
市の メリット	地域住民で会を構成していることから、迅速性があり、専門性を持ったメンバーもいるので、事業を円滑に実施できる。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業が終了となるので、今後、活動を継続していくには、自主財源の確保が必要になってくる。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（☐提案型 ☐提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

■その他（ 下記参照 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業が終了となるので、今後の活動について、行政と相談しながら今後も活動を続けていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市 農水産課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	みんなでつくる花いっぱい街づくり事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	平成21年度から計4年間、協働事業を実施しており、事業の目的は共有できていると感じる。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	農水産課では、主に広報や事業実施に関する協力、助言などを行い、明日の金田を創る会では、日常管理等を行うなど、適正な役割分担の下で事業が実施できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	今まで以上に協議を行い、視察研修やアンケートなども含め、事業の進め方について十分協議を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	話し合いを重ねることで、お互いの立場や考え方を理解することができ、共通の視点で事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	地域住民で明日の金田を創る会を構成していることから、行政と比べて、柔軟性や迅速性があり、花や植物に詳しい会員もいるので、事業を円滑に推進できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	明日の金田を創る会と話し合いを重ねながら、平成 21 年度から事業を実施しているので、目的・目標はおおむね達成できている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	毎月 1～2 回、花の植栽・管理をしており、地域拠点にざる菊を設置したり、ユースボランティアの受け入れを行うなど、費用対効果は高い。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市が主催する大収穫祭で、来場者にアンケートを取り、満足の高い評価を頂いた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	以前は雑草だらけの場所が、きちんと管理され、花が植栽してあり、近隣住民のみでなく、ひらつか花アグリを訪れる人にとって、憩いの場となっている。
団体の メリット	毎回 20～30 名程度のボランティアが活動に参加するなど地域のふれあいの場が生まれている。
市の メリット	地域住民で会を構成していることから、迅速性があり、植木職人や農家、花に詳しい者など、専門性を持ったメンバーもあり、事業を円滑に推進できる。

(4) その他、課題やその改善方法など

若年層を取り込んだ中で、会の活動を継続的、発展的に実施すること。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（☐提案型 ☐提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

■その他（ 下記参照 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業が終了となるが、引き続き団体と活動を継続できるような方法を模索する。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	明日の金田を創る会	担当課名	農水産課
事 業 名	みんなで創る花いっぱいの街づくり		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

平成21年度から4か年継続して事業を推進しており、相互を十分理解した上で、しっかりと役割分担のもとに事業を推進することができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

・月1~2回、花の植栽・管理をしたことで、県道残地と古川排水路沿いの桜並木の周辺に、菜の花、ポーチュラカ、パンジー、ビオラなど、四季折々の花を植栽することができた。また、地域拠点にぎる菊を設置したことで、ひらつか花アグリへの来訪者を花で出迎える共に、地域住民のふれあいの場ができた。

・協働事業を通じて、定期的に花の植栽、管理をし、3年連続でユースボランティアの受け入れも行うことができ、費用対効果は高い。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・平成 20 年度までは、ちがや等の雑草だらけだった場所が、徐々に整備され、今では、花が植栽・管理されており、その花を観賞しに来る人もいるようになった。
- ・年 1～2 回の活動では、20～30 人のボランティアが参加しており、ふれあいの場となっている。
- ・会の活動を大収穫祭や公民館まつり等を通じて、広く知ってもらうことができ、活動に共感した人に励ましの言葉を頂いたり、活動に賛同した人が会員になるなど、会員が事業を通じてやりがいを感じている。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・協働事業が終了することにより、活動を継続していくうえで、明日の金田を創る会は、自主財源を確保し、事業を実施することが必要になってくる。
- ・若年層を取り込んだ中で、明日の金田を創る会の活動を継続的・発展的に実施することが必要になってくる。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

☒ その他（ 下記参照 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成 24 年度は自主財源として、ざる菊を有償提供することで事業収入としたが、今後は、協働事業が終了するというところで、より自主財源を確保したうえで、活動を継続していきたい。

平成24年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平 塚 市 長

団 体 名 ひらつか市民活動連絡協議会

団体代表者 原 園 信夫 印

事業担当課名 協働推進課

事業担当課長 小 林 光徳 印

平成25年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化		
事業開始年度	平成23年度	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	276,521 円	内 訳	市の支出 276,521 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	市民活動団体間の連携により、5つの分野別部会において昨年度作成した活動計画を実施し、各部会の活動をコーディネートする。 市民活動、協働事業の情報発信を実施する。 活動拠点の機能強化として、市民活動センターの情報発信の強化、相談機能の強化を図る。		
具体的な 実施内容 実施年月日、実施 内容、参加者等 をご記入ください。	■各部会において団体連携による地域課題解決等の活動をコーディネート 1 福祉部会 ユニバーサルデザインプロジェクト バリアフリートイレマップ『ひらつかの「みんなのトイレ」情報』の作成 掲載施設数 59施設 発行数2,000部 2 福祉部会 ふらっと～みんなの相談～ 福祉分野で連携する市民活動団体の情報を載せたパンフレット作成 掲載団体数 12団体 発行数2,500部 3 災害時要援護者支援の取り組み 災害時要援護者支援の取り組みを啓発するためのパンフレット作成 2種類のパンフレット 各2,000部発行 座談会開催 災害時要援護者支援を考える「誰もが安心して暮らしたい」参加28名 4 花のまちづくり部会 平塚駅南口駅前噴水広場の草むしりを毎月実施。 市と協働で駅前噴水広場の北側・西側にバラを植樹（53本） 5 情報部会 ひらつか市民活動センターホームページの改善提案 市民活動センターと共催でソーシャルメディア講座実施（2回）		

■活動報告等と市民活動フォーラムの実施

7月28日 協働事業分野別部会全体会議 参加 21名

10月28日 市民活動フォーラムの開催 参加 86名

●基調講演：神奈川大学名誉教授 松岡 紀雄 氏

市民活動の新たなステージ - 地域が求めるNPOとは -

●パネルディスカッション：自治会、市民活動団体、連絡協議会、行政
平塚のまちづくり - 市民活動と地域との連携

2月23日 2年間の協働事業成果報告会の開催 参加者 43名

■団体交流事業の共催

5月18日 新規団体交流会を共催実施 参加 26名

1月20日 新春団体交流会を共催実施 参加 25名

■協働事業情報紙「協働のひろば」の発行

9月 第1号発行 1500部

12月 第2号発行 1500部

3月 第3号発行 1500部

■24年度協働事業報告書作成

3月末作成

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成25年度実施協働事業 決算報告書

① 収入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	444,000	276,521	-167,479	①報償費 38,683 円、②負担金 237,838 円
	団体の支出	10,000	0	-10,000	食糧費は発生しなかった。
	事業収入				
	収入合計	A 454,000	B 276,521	B - A -177,479	
② 支出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	講師謝礼	60,000 (60,000)	38,683 (38,683)	-21,317	松岡紀雄氏謝礼 33,157 円、露木氏 5,526 円
	人件費 (有償ボランティア)	377,400 (377,400)	194,800 (194,800)	-182,600	協働ニュース企画編集費：103,200 円 講演会企画運営：21,200 円、新春交流会：企画運営 6,800 円 団体間の連携：63,600 円
	食糧費	10,000 (0)	0 (0)	-10,000	食糧費は発生しなかった。
	事務用品費	4,400 (4,400)	10,018 (10,018)	5,618	コピー用紙 6,148 円、プリンターインク代 3,870 円
	印刷費	2,200 (2,200)	33,020 (33,020)	30,820	印刷費 1,450 円、協働ニュース発行外部印刷：31,570 円 (協働ニュース発行を人件費から印刷費 (外注) へ)
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 454,000 (444,000)	D 276,521 (276,521)	D - C -177,479	
③	収支決算額 B 276,521 円 - D 276,521 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか市民活動連絡協議会	☒ 団体 ☐ 行政
事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	3	「市民活動団体間の連携強化」について、連携できる分野別部会で部会の活動テーマに沿って成果を出せた。 「活動拠点の機能強化」については、センターの事業を補佐する形で、手助けを行う程度で終わった。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	第3条で取り決めた役割及び責任分担について、お互いの立場を尊重し、適切な助言をいただきながら、目標を達成できた。各部会にも行政側の担当が携わり、配布物や宣伝において協力がいただけた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	「市民活動団体間の連携強化」に向けて運営方法の決定会議に行政も交えて、協議できた。アンケート内容のチェックなど、必要に応じ、フォーラム実施から報告冊子作成まで協議しながら進めることができた。お助けメニューの作成については、行政側で対応することにした。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	各部会運営やフォーラムの企画等は協議会が行う、フォーラムや講演会の開催の先行会場予約や講師謝金の支払い、また各種印刷のサポートは行政が行うなど、お互いの立場を尊重し、一緒に行動できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	3	行政と連携することで、市民活動を考える団体の中核として行動できた。ただし、市民活動団体は自分の団体の運営に手いっぱいというところが多く、期待するほどの連携は得られなかった。余力のある団体の発掘とプラスワン活動の展開が求められる。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	市民活動団体の連携強化については、5 部会がそれぞれ会議や調査を重ね、成果物を出すことができた。 活動拠点の機能強化については、イベントのサポートのみに終わった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	協働のひろばで情報提供を行い、協働についてのアピールができた。また、市民活動フォーラムにおいては、今後市民に求められる活動について、地域、市民団体、行政の意見交換ができた。部会の成果物については、市民活動ファンドの助成金で発行した。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	3	5 部会の成果は、各々の分野で関係する住民に対してお役に立つ情報であり、十分な評価が得られた。特にひらつかの「みんなのトイレ」情報は、メディアにも多く取りあげられ、注目を浴びた。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	広報紙「協働のひろば」は、市民活動について知ることができたし、ひらつかの「みんなのトイレ」情報は障がい者や高齢者にも役立つものとしてまとめ上げられた。
団体の メリット	労多くして、評価されない面が多いが、成果物を共有できていったことで、市民活動団体のパワーを少しでも協調できた。
市の メリット	花のまちづくり部会において、市長も参加したことをはじめ、各部会も見えないところで輪が広がっている。市民活動の連携と活性化が少しはできた。

(4) その他、課題やその改善方法など

市民活動団体は自分の団体のことで精いっぱいであり、なかなか連携までというところは少ない。しかしまちづくりは共通の課題であり、模索できる機会を提供できていければと思う。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☐ 行政が単独で実施

☐ その他（

☒ 休止または終了

☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業は休止するが、分野別部会の活動は継続していくので、フォローを続けていく。また、市民活動センターの機能強化の視点からも今後も行政と協力していきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	市民活動団体間の連携強化と、情報発信、活動拠点の機能強化を図ることにより、市民活動の活性化を進めるという目的について、団体と行政が共有できていた。 今年度は、5つの分野別部会の活動と報告、フォーラムの実施、情報紙の発行などにより効果的に取り組んだ。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	各分野別部会の活動実施や進捗管理、2回の報告会や市民活動フォーラムなどにおいて、団体が中心となって企画運営をし、行政も企画助言、広報、会場確保など概ね当初想定した役割分担どおりに事業を実施できた。 情報紙印刷等、協議により効果的な手法を選択できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	毎月の協働事業についての会議において、団体と行政で協議を重ねて事業を実施した。そのため団体・行政それぞれの立場を理解して事業を進めることができた。 各分野別部会の進捗管理や部会間の連携、活動拠点の機能強化については、もっと協議が必要だった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	団体・行政それぞれの立場を尊重して十分に協議を重ねながら実施できた。 事業の企画等の場面では、プロジェクトを進めるメンバーとして目標を共有しながら進められた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	行政が主導する形ではなく、市民活動団体が自ら中心となって連携を図る手法はより自発的な参加を促し、大きな成果を生むことができた。 今年度実施された団体連携による事業は次年度も継続され、今後のさらなる連携の発展も期待できる。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	市民活動団体間の連携強化の視点では、30以上の団体が分野別部会に参加し、5つの部会で、団体間の連携による活動の成果をあげられた。 活動拠点の機能強化については、ソーシャルメディア講座の共催など一定の成果はあったが、相談機能の強化については、具体的な取組みに繋がらなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	毎月の定例会以外にも、各部会のコーディネートや、市民活動フォーラム等の実施、協働情報紙の取材編集作業など団体の力が発揮された。 またこの事業では支出していない各部会の活動費には助成金を活用するなど工夫して対応した。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 連携に参加した団体から、今後も連携を続けたいという評価を受けており発展的な連携が実施された。 具体的な成果物として「みんなのトイレ情報紙」などはメディア等でも取り上げられるなど反響を呼んだ。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体の連携が活性化し、市民活動も活性化された。また、各部会の活動によって市民への新たなサービスが生まれた。
団体のメリット	市と協働で実施したことで関係機関との連携が深まった。メディア等でも取り上げられて活動を周知できた。団体連携による事業実施のノウハウを得ることができた。
市のメリット	団体連携が深まって市民活動の可能性が広がった。また、協働の情報発信では行政単独で実施するよりも効果的に協働事業についての周知が図れた。

(4) その他、課題やその改善方法など

各部会の活動も続いていく中で、団体のマンパワー不足も懸念される。この事業を通して連携を深めた団体なども巻き込んで組織の強化を図ってほしい。 また、この事業で得た団体連携のノウハウを団体・行政ともに今後の市民活動の発展に活かせるようにしていく必要がある。
--

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
☐ 行政が単独で実施
☐ その他（

- ☒ 休止または終了
☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

提案型の協働事業としては休止するが、各部会の活動は続いていくので団体と行政での情報共有を続けていく。また今後も協働事業の情報発信や、市民活動団体間の連携強化、活動拠点の機能強化の視点で協力していきたい。
--

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか市民活動連絡協議会	担当課名	協働推進課
事 業 名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

毎月協働事業についての定例会議を実施し、団体と行政が協議を重ねながら事業を進めることが出来た。

役割分担、目的共有の視点でも、2年目の事業であるため、概ね当初の想定通りの役割分担で事業を実施でき、目的の共有も出来ていた。

しかし、活動拠点の機能強化、特に相談機能の強化については、十分な成果があがらなかったため、その部分は協議が不足していた、お互いに意識が足りなかったと反省している。

相互評価の中で、評価点の差については、団体がより具体的な連携の成果を求めたのと、行政は団体の連携自体を評価したことによるもので、大きな見解の違いでないことを確認した。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

市民活動団体間の連携強化の視点では、5つの分野別部会に30以上の団体が参加し、会議や調査を重ねて連携し活動の成果をあげることができた。また、市民活動フォーラムや情報誌の発行などにより、市民や地域、市民活動団体へ団体連携の必要性や、協働事業についての情報発信が出来た。「みんなのトイレ情報」で成果物がメディアに取り上げられた。

協働事業では費用を計上していない部会活動経費も助成金を活用するなど効率的、効果的に事業を実施出来た。

一方、活動拠点の機能強化については、協議も足りなく、あまり成果をあげられなかった。

評価の差については、団体と行政との評価方法の違いによるもので大きな見解の違いでないことを確認した。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民活動団体が連携して実施した分野別部会では、「福祉の相談」「ユニバーサルデザイン」「災害時要援護者支援」「バラをシンボルにまちづくり」「市民活動の情報発信」をテーマに地域、まちの課題に取り組んできた。その成果として、「相談リーフレット」「バリアフリートイレマップ」「災害時要援護者支援啓発パンフレット」「南口駅前広場のバラの植樹」「ソーシャルメディア講座」など目に見える形で市民へのサービス提供が出来た。

団体としては、多忙な中プラスアルファの活動で苦勞が多かったが、市民活動団体の力を強調できた。また、行政と協働することで、関係機関との連携も深まり、団体連携のノウハウを得ることができた。

行政としては、団体間の連携強化が図られ市民活動が活性化した。協働事業の情報発信では、団体との協働により、効果的に情報発信ができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

市民活動団体は、各団体の活動もある中でさらに連携しての活動の難しさもあった。今後継続して団体連携を図っていく中では、事務局機能の強化も課題となる。この事業を通して連携を深めた団体なども巻き込んで組織の強化が出来るといい。

一方で、まちづくりの課題は共通のもので、団体が連携することの効果は十分に確認できた。今後も連携について模索する機会を提供していきたい。この事業で得た団体連携のノウハウを、団体も行政も今後の活動に活かしていきたい。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☒ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

☐ その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

提案型の協働事業としては休止するが、各部会の活動は続いていくので団体と行政での情報共有を続けていく。また今後も協働事業の情報発信や、市民活動団体間の連携強化、活動拠点の機能強化の視点で協力していきたい。

平成24年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	ひらつか自治体財政研究会		
団体代表者	井上 駿		印
事業担当課名	平塚市企画部財政課 平塚市学校教育部指導室		
事業担当課長	財政課長	石田 有信	印
	指導室長	深谷 昇平	印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	小学生向け財政パンフレットの作成		
事業開始年度	平成23年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	143,570 円	内 訳	市 の 支 出 68,000 円 ----- 団体の支出等 75,570 円
事業の概要	・小学生向けに、平塚市の財政を紹介した数ページのパンフレットを作成し、社会科の授業用教材として提供する。 ・教師の指導用として、説明資料を作成する。		
具体的な実施内容	① 財政パンフレット等編集会議の実施 ・団体内での打ち合わせや、団体及び行政間での編集会議を20回程度実施し、小学向け財政パンフレットと教師指導用資料を作成した。 ② 財政パンフレット等の納品 ・小学向け財政パンフレット：平成24年11月29日 2616部 「平塚市民の生活や まちづくりのお金」（平塚市の財政） 4ページ ・教師指導用資料：平成24年11月29日 108部 「平塚市の財政」 20ページ ③ アンケートの実施 回 答 数：25件（28校中） 検討結果：回収された結果からすると、全体的には役に立ったと判断されているように思う。 ・パンフレット使用の19校中、16校は「役に立った」と評価 ・17校が「分かりやすかった」と評価。教科書の事例（世田谷区）と比較し学習を進めたので、特色、違いなどが分かりやすかった。 自由意見では ・地域行政の学習資料として活用。具体的な内容があり、子どもたちにも分かりやすかったようだ。 ・学習計画が組まれているため、授業の中で使用することはできなかった。教科書とパンフレットが対応していると使いやすい。		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成 24 年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	68,000	68,000		
	団体の支出	82,400	75,570	-6,830	印刷方法の見直しで費用を削減した。
	事業収入				
	収入合計	A 150,400	B 143,570	B-A -6,830	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	人件費	102,400 (35,000)	102,400 (35,000)	0	予算時：財政パンフレット ￥800 x 96Hr 76,800 教師用資料 ￥800 x 32Hr 25,600 合計 102,400 実績時：財政パンフレット ￥800 x 96Hr 76,800 教師用資料 ￥800 x 32Hr 25,600 合計 102,400
		()	()		
		()	()		
	印刷費	43,000 (33,000)	29,550 (29,550)	-13,450	予算時：財政パンフレット ￥23,000 A4 判 4 ページ、カラー、2500 部 教師用資料 ￥20,000 A4 判 20 ページ、モノクロ、100 部 実績時：財政パンフレット ￥22,000 A4 判 4 ページ、カラー、2600 部 教師用資料 ￥6,000 + ￥1,550 合計 29,550 A4 判 22 ページ、モノクロ、110 部 当初教師用資料は専門業者での印刷を予定したが、ひらつか市民活動センターやコピー機での印刷、自宅プリンターによる印刷に変更し費用を削減した。
		()	()		
			()		
	事務用消耗品費	5,000 (0)	11,620 (3,450)	+6,620	予算時：印刷用紙 A4 2500 枚 プリンターインクなど ￥5,000 実績時：トナー ￥9,980 用紙 A4 500 枚 x 2 ￥860 インクカートリッジ ￥780 合計 11,620
		()	()		
	支出合計	C 150,400 (68,000)	D 143,570 (68,000)	D-C -6,830	
③	収支決算額 B 143,570 円 - D 143,570 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか自治体財政研究会・財政課/指導室	■団体 □行政
事業名	小学生向け財政パンフレット作成	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	3	教科書の事例を補足し、平塚市の財政の一端を知ってもらいパンフレットを作成し授業に提供しようという思いを共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	団体からは市民に知って欲しい財政データ（例えば借金や貯金など）を提案し、イラストや写真を使って分かりやすく工夫した。 行政は、漢字など小学生が理解できるか、財政データが正しいかなど専門を活かした。
③「十分に協議」を行いましたか。 （双方の特性の理解に努めましたか。）	3	原稿作成中は2週間に1回編集会議を開催、互いの検討結果を出し合って話し、十分に話し合いした。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	3	分かりやすさをどう実現するか、それぞれの立場から意見を出し合ってまとめることが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	小学生に平塚市の財政を知ってもらえる機会が作れた。 パンフレットを家庭に持ち帰って、家族内で財政について話合いのきっかけを持つことが出来た。 団体ではこのように広報することは難しく、協働で取り組むことで得られた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	財政パンフレットを作成し、授業で19校に使用してもらったなどの目標は達成できたが、アンケートには学習内容が多く授業で使用できなかったとの報告が6件あり、パンフレットの内容をどの程度にするかなど課題も見つかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	どのように判断するか難しい。 十分な効果があったと思う。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 学校へのアンケートから、パンフレットは「授業に役に立った」と84%の評価を、また教科書（世田谷区の例）には記載が無い平塚市の財政情報を授業で使い分かりやすかったとの回答を得た。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	分かりやすい財政の資料を入手することができた。
団体の メリット	子どもたちを通じて家庭に分かりやすい財政パンフレットを渡すことが出来た。
市の メリット	分かりやすい財政パンフレットを子どもたちに提供できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

平塚市の財政情報を多くの市民に知ってもらえるよう、分かりやすい広報を提供すること必要と思います。今回の協働事業で一部の家庭に届けることが出来ましたが、今後はどのように届けられるか検討したい。

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
 ☐ 休止または終了
☐ 行政が単独で実施
 ☐ 団体が単独で実施
☒ その他（団体で財政パンフレットなど作成し市民に提供したい）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

財政勉強会を開催するなど、市民に知ってもらえる機会を検討したい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市 企画部 財政課 学校教育部 指導室	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	小学生向け財政パンフレットの作成	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	団体及び行政のそれぞれの協議、また共に協議することにおいて共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	概ね当初の事業計画において予定されていた役割分担のとおり進行できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	団体及び行政間においては、お互いの特性を理解し合いながら十分な協議が行われた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施できましたか。	4	お互いの立場を理解し合いながら、協力して実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られましたか。	4	市民の目線と行政の目線、双方からの意見を出し合うことができた。また、学校との連絡などの役割分担において、行政間でも効果的に実施できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	学校での使用率も高く、平塚市の財政について児童に伝えることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	明確な目的・目標の達成度を測ることは難しいが、学校ごとのアンケートでは概ね好評で、社会の授業に役立っており、効果はあったように思っている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など パンフレットを配布した小学校にアンケートを行った。（小学校 28 校中 25 校回収 回収率 89.3%） 授業での使用が 20 校あり、そのうち 17 校が役に立ったと回答している。また、内容についても 18 校が分かりやすかったと答えている。各学校において有効に活用していただいたことがわかる。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	小学生に市の借金や貯金、扶助費の増加などを具体例を含め知ってもらうことができた。
団体の メリット	行政の持つ情報等を活用することにより、小学生や家庭、先生方などへ平塚市の財政の一端を知ってもらう資料を提供することでき、まちづくりへの関心を持ってもらうことができた。
市の メリット	市民の目線を取り入れ、わかりやすく情報提供ができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
☐ 行政が単独で実施
☐ その他（

- ☒ 休止または終了
☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今回、社会の教科書に準じた内容と分かりやすいレイアウトに変更したことで、先生方が活用しやすくなったため、使用率が上昇したと考える。
また、配布時期も適当であった。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか自治体財政研究会	担当課名	財政課 指導室
事 業 名	小学生向け財政パンフレット作成		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

概ね評価内容は同様であることを確認した。

原稿作成中は2週間に1回程度、編集会議を行い、十分に話し合いをすることができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

概ね評価内容は同様であることを確認した。

達成度を計測することは難しいが、実施したアンケートで各学校で有効に利用したとの回答をいただいた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

概ね評価内容は同様であることを確認した。
分かりやすいパンフレットを作成することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業は終了するが、市民へ財政情報をどう広報するか、今後の課題として団体で取り組みを検討する。

(5) 今後の具体的な展開

- | | |
|---|---|
| ☐ 今後も双方で実施（ ☐ 提案型 ☐ 提案型以外） | ☒ 休止または終了 |
| ☐ 行政が単独で実施 | ☐ 団体が単独で実施 |
| ☒ その他（ 団体に財政パンフレットなど作成し市民に提供したい ） | |

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

団体に財政勉強会を開催するなど、市民に知ってもらえる機会を検討したい。

平成24年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	平塚のら猫を減らす会		
団体代表者	小山 昇		印
事業担当課名	環境政策課		
事業担当課長	安藤 政俊		印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	「地域猫」への取り組み		
事業開始年度	平成23年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	205,250 円	内 訳	市の支出 120,000 円 ----- 団体の支出等 85,250 円
事業の概要	①「地域猫」とは のら猫をエサの管理、不妊去勢手術の徹底、フンの清掃、周辺美化など地域のルールに基づいて適切に飼育管理し、のら猫の数を増やさないで一代限りの生を全うさせることで地域住民の認知を得られた猫のことである。 <地域のルール> 1. エサやりの時間・場所を決め、後始末を必ずする。 2. エサ場周辺に猫用トイレを設置し、清掃をこまめにする。 3. 不妊・去勢手術を徹底する。 4. 地域内で話し合いを重ね、世話に対する住民の理解を得ること。 5. 飼育責任者を明確にし、地域で責任を持つこと。 ②数年前に、NHKによる「ご近所の底力」という番組が「地域猫」による「のら猫問題解決法」をテーマにした放送を行った。内容としては、のら猫を地域の合意のもとで不妊・去勢手術・糞尿の清掃・エサの管理等を行い、猫を嫌いな人・好きな人・無関心な人が地域の問題として関わり、地域のコミュニティの構築を図る事例であった。この番組を参考に、「地域猫」活動を通じて、希薄になった地域のコミュニティの再構築を目指していく。 ③「地域猫」には二つの活動方法がある。「自治会ぐるみ」で行う場合と3人以上のグループでリーダーを決めて自分達で管理できるのら猫のみ行う方法である。いずれも自治会・町内会の承認を得て取り組む必要がある。 ④「地域猫」活動の定着を図るため、行政との連携を強化してお互い役割を明確にして責務を果たしていく。又、固有の法律を持たない、のら猫問題を学習するため関係者の講習会、専門講師の講演会等を行う。		

具 体 的 な 実 施 内 容 実施年月日、実施 内容、参加者等 をご記入ください。	別添、『「地域猫」への取り組み 今までの経緯と今後の予定』参照のこと。
---	--

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

「地域猫」への取り組み 今までの経緯と今後の予定

<大島>

・大島自治会館と隣接した大島八幡神社境内に猫が5～6匹捨てられており、近隣住民の庭にフンをしたり、鳴き声がうるさいなどの被害が発生し、自治会長より相談があった。

平成22年10月15日 自治会長より電話で相談あり。

平成22年10月26日 自治会三役と周辺住民、減らす会、市環境政策課職員による打ち合わせを実施する。地域猫に関する説明を行う。

猫を管理する人が決まったものの、神社の敷地内ということもあるので、総代を交えて再度説明会を行うこととなった。

平成22年11月5日 総代・自治会組長会議に同席し、改めて神社境内の猫の現状と地域猫の説明を実施する。エサやトイレの管理について、2名の住民が協力してくれることとなった。

平成22年12月21日 自治会長宅にて猫の管理者、減らす会代表と市環境政策課職員で報告会を行う。トラブル等は特段ないが、管理者以外にもエサを与えている人がいるとのことであったので、境内に看板を設置する。

平成23年2月中旬 協力者より電話連絡あり。神社境内敷地内に防犯灯が設置され、境内敷地内が夜でも暗くなくなったとのこと。また、「大島のタイガーマスク」を名乗る匿名の人物から猫のエサの寄付があったとのことであった。

～今後～ 大島自治会長が平成23年4月で変更されたので、新自治会長にも改めて地域猫の説明をする予定である。また、神社以外に猫に関するトラブルがあれば同様に解決を目指していく。

平成23年7月12日 大島自治会長（新自治会長）宅訪問し、神社においての地域猫活動についての説明をする。減らす会代表、野良猫の管理者2名、市環境政策課職員同席。前会長から引き継ぎを受け、地域猫についても既に勉強済みであるとのことであった。今のところ、神社境内及び付近で新たなトラブル等はなく、野良猫の管理は順調であるとの報告を受ける。

<田村8丁目>

・一戸建ての市営住宅の跡地。住んでいた住民が野良猫にエサを与えており、その後住宅が取り壊されてしまったものの、敷地に野良猫が集まり、近隣の畑や住居にフンをされてしまうなどのトラブルが発生しているもの。

- 平成22年10月27日 減らす会会員より相談あり。野良猫にエサをあげている人が近隣住民から責められているとのこと。エサをあげている人は精神疾患を患っており、入退院を繰り返すこともあるとのこと。今後、野良猫を減らすためにどうしたらよいかとの相談であった。
- 平成22年11月24日 エサをあげている本人から相談あり。内容は上記と同様。
- 平成22年12月10日 減らす会代表と市環境政策課職員で現場調査実施。エサを与えている人、近隣住民も同席。近隣住民からフン害の被害がひどいとの苦情が続出する。トイレの設置について検討する。その後、エサをあげている土地が市の所有地のため、担当課の了解を得たうえで、猫用トイレの設置を行うこととした。
- 平成22年12月20日 減らす会会員と市環境政策課職員で敷地内に猫用トイレの設置を行う。近隣住民にも説明し、様子を見てもらうよう説明する。
- 平成23年1月17日 自治会長宅にて田村での経緯と今後についての説明を行う（減らす会代表、市環境政策課職員、議員同席）。市の土地のため、今後売却等で使用できない可能性がある。少しずつエサやりやトイレの場所を移動し、河川敷等で地域猫活動をする旨説明する。自治会長より、近日中に組長会議にて説明をしてくれるとのこと。
- 平成23年2月10日 自治会長へ連絡。平成23年1月31日に組長会議が開かれ、自治会長より説明を行ったとのこと。組長たちからは賛同の意見があり、それならば協力するとの返事であったとのこと。
- 平成23年6月16日 田村8丁目自治会長・田村宮の前自治会長と面談。改めて地域猫についての説明を行った。
- 平成23年11月1日 田村8丁目住民より再度連絡あり。猫用のトイレを設置したが、改善していないとのこと。また、トイレとして砂を入れたプランターを設置したが、そこにゴミが捨てられてしまっているとのことであった。（同日、建築住宅課職員により撤去）
- 平成23年11月5日 田村宮の前住宅自治会館にて、田村住民約20名を集め、田村8丁目の野良猫について再度協議する。結果、敷地の土を耕し、トイレ代わりにして管理することで同意を得ることができた。

平成23年11月12日 田村8丁目敷地内でトイレ代わりとして、敷地内の土を耕す。
(管理者の建築住宅課とは事前に調整済み)

平成23年12月14日 平塚のら猫を減らす会代表と現場調査を実施する。敷地内で猫のフンを確認した。また、数匹の猫は敷地内でフンをしているところも確認ができた。

～その後～ 土が柔らかくなったため、猫がトイレ代わりに使用するようになり、畑へのフン害が減ったとの連絡あり。
エサやりについても、片づけ等徹底しているため、トラブルが激減した。

<龍城ヶ丘>

・数年前から龍城ヶ丘市営住宅付近で野良猫の不妊・去勢手術活動をしている減らす会会員が高齢になり、管理しきれない可能性があるとのこと。今後地元の協力者等、理解してもらったうえ、地域猫活動に結び付けられないかという相談。

平成23年5月31日 自治会長、減らす会、市環境政策課職員で現場調査を行う。猫は特にいなかったものの、夕方になると市営住宅周辺の駐車場に集まってくるとのこと。自治会長に対し、地域猫の説明をするとともに、必要であれば組長会議等で説明する旨伝える。

<立野町>

・数年以上前から、野良猫にエサを与えている住民がいて、近隣や公園などでのフン害に悩まされている。猫の数が十数匹との情報もあり、住民へ何度か自治会長が接触するも、解決しない。

平成23年7月28日 市民活動センターにて立野町自治会へ地域猫についての説明会を行う。自治会長は地域猫活動に一定の理解を示してくれた。今後、組長会議等で説明する旨伝える。

～その後～ 保健所職員と共に、エサやりの住民宅へ訪問し、地域猫活動についての説明や現場調査を実施するも、住民本人とは電話でのみ接触できたにとどまった。また、自治会長の急逝等により、平成23年度は現状把握をしたのみであった。

<岡崎>

・岡崎の市営住宅に住んでいる人が野良猫にエサを与えているとのこと。のら猫を減らす会で訪問し、不妊・去勢手術の案内をしたものの、あまり理解を示してくれないという。また、このことで近隣ともトラブルとなっているため、住民同士と話し合って地域猫に結び付けられないかと言う相談。

平成24年6月24日	のら猫を減らす会より連絡あり。野良猫にエサをあげている人がいるとの相談を受け、現場調査して不妊・去勢手術の案内をしたものの、あまり理解をしめしてくれないとのこと。現場調査をしてほしいとのことであった。
平成24年7月2日	市環境政策課による現場調査を実施するも、野良猫の姿は確認できず。
平成24年7月4日	市議会議員より相談あり。野良猫にエサをあげている住民が家の中に猫を保護しているとのこと。また、猫は妊娠中で出産後に里親を探すつもりであるが、見つからない場合は遺棄する可能性があるので、現場に行ってほしいとのことであった。
平成24年7月17日	再度、市環境政策課による現場調査を実施する。住民宅を訪問し、不妊・去勢手術の案内をし、了承を得られる。
平成24年10月上旬	再度市議会議員から相談あり。一度、岡崎の自治会長を含め住民たちと野良猫の今後について話し合う機会を設けたいとのこと。なお、開催にあたって、のら猫を減らす会と市環境政策課、建築住宅課の各職員も同席してほしいとの依頼であった。
平成24年10月12日	市環境政策課、建築住宅課職員、市議会議員、のら猫を減らす会、住民による話し合いが実施される。当日になり、自治会長を含めた役員が「この問題は地域の問題でなく、野良猫にえさをあげている人、困っている人個人の問題である」ことを理由に欠席してしまったため、猫好きな人と嫌いな人、困っている人などの価値観の違う住民同士が言い争うだけの話し合いに終わってしまう。
平成24年10月16日	市議会議員来所。今後については、市から自治会長に対して話し合いをするよう働きかけをしてほしいとのこと。市から依頼等があれば、自治会の役員は打ち合わせに参加してくれるとのことであった。

<馬入本町>

・馬入本町で野良猫が増えている。お寺の境内にも多数生息していて、また他の地域にもいるとのこと。のら猫を減らす会のメンバーが自治会長や住民に対して既に説明をしている状態であるが、一度行政も参加した打ち合わせを開きたい。

平成24年9月27日 松原公民館にて自治会長と役員数名、環境政策課職員とのら猫を減らす会で打ち合わせをする。地域猫制度には理解を示してくれたものの、役員を集めての会議等は経験がなく住民が混乱してしまう恐れがあるため、まずは回覧等で周知し、反応を見たいとのことであった。市環境政策課で回覧の原案を作り、メール等で送付し、回覧することとなった。

平成24年10月11日 何度か自治会長とメールをやりとりし、回覧文書を送付する。

<北金目>

・自宅で野良猫にエサをあげている人がいて、近隣とトラブルになっている。エサをあげている人は80歳前後の認知症と思われる女性。夫がいるが、夫は要介護度がついている。息子が2人いるものの、あまり関わりがない。猫は数十匹いるとの報告がある。また、同じ地区内の魚屋周辺にも野良猫が多数生息しており、自治会内で問題となっている。

平成23年11月22日 平塚保健福祉事務所環境衛生課職員より連絡あり。個人宅で野良猫にエサをあげている人がいて、近隣宅でフン害が発生しているとの苦情が寄せられたという。現場調査への同行を要請されたため、保健所職員と市環境政策課職員とで現場調査を実施する。自宅周辺に6～7匹の猫がうろついていて、車庫の中や自宅前の道路にもフンがされている状態であった。エサをあげているという女性に事情を聴き、補助金制度の説明やボランティアへの連絡を助言した。

訪問の際、保健所職員より女性に認知症の症状がある可能性があるとの助言を受けたため、帰庁後「平塚市高齢者よろず相談センターひらつかにし」（以下、「包括」という。）に情報提供する。包括でも訪問調査等を実施してくださるとのこと。

平成24年6月24日 市議会議員より相談あり。同じ北金目の地区内（上記住宅から直線距離で約100メートルの距離）に魚屋があり、その店主が野良猫にエサをあげているとのこと。現場確認の依頼であった。

- 平成24年7月2日 市環境政策課職員2名で現場調査を実施する。魚屋の店主から話を聞くことが出来た。店主は特にエサをあげていないが、魚屋なので猫が寄ってきてしまうとのことであった。10匹近くはいるのではないかとのこと。店舗北側の梅林の中に野良猫が数匹いたことを確認。店主には補助金制度の説明をした。
- 平成24年7月12日 包括の職員からの呼び掛けにより、女性宅の今後について話し合う「地域ケア会議」を地元自治会館で実施する。包括職員、市環境政策課職員、市高齢福祉課職員、女性のケアマネ、ヘルパー、自治会長、自治会役員、地元住人等、合計20人前後が出席。女性宅の家族の内容よりも、野良猫の話題でほとんどを占める。野良猫の補助金制度や、野良猫の生態等を説明し、今後、市民団体を含めた協議をすることとした。なお、住民からは、女性宅への協力は惜しまない旨の返答があったものの、女性宅があまり自治会に協力的ではないので、困っているとのことであった。
- 平成24年7月24日 平塚のら猫を減らす会代表と市環境政策課職員2名で女性宅、女性宅周辺の現場調査を実施する。相変わらず、女性宅の車庫に多数の野良猫がいる状態であった。本人に話を聞くも、近いうちにこの猫は九州の親戚が引き取るので問題ないと話す。エサ箱が外に置きっぱなしであったため、あげた後はすぐにしまうよう伝えた。その後の周辺調査においても、複数の野良猫を確認した。また、周辺の住民からも野良猫にフンをされて迷惑しているとの意見を聞いた。続いて魚屋周辺も車で回り、猫が数匹いることを確認した。代表と協議し、自治会長含めた近隣住民で再度話し合いの場を設けることとした。

平成24年9月10日	平塚のら猫を減らす会の会員数名、包括職員、ケアマネ、市環境政策課職員、自治会長等含めた住民の20人前後で北金目地区の野良猫対策の今後についての話し合いを実施する。 再度、野良猫の生態や、地域猫の制度説明をした。女性の家庭状況等を考慮し、個人で対応することは不可能と判断、団体が猫の捕獲・手術を実施し、自治会で手術代やエサ代等の費用を捻出するということを決める。なお、魚屋周辺についても同様とし、双方とも近日中に手術を実施することとした。 なお、女性に対しては説明しても翌日には記憶に残っていない可能性等があり、女性の夫に対して、普段から生活に深く関わっているケアマネと包括職員から説明し、了解を得るということが決まった。 話し合い終了後、魚屋の店主にその旨説明したところ、手術のための捕獲については協力してくれるとのことであった。
平成24年9月17日	平塚のら猫を減らす会による、不妊・去勢手術のための捕獲を実施する。女性宅では女性が野良猫を捕獲することを不安に感じてしまったらしく、女性の夫が激昂してしまったため、思うように捕獲作業が出来なかったとのこと。魚屋と合わせて、6匹の手術を実施した。猫はまだまだ生息しているため、日を改めて実施することになったとのこと。
平成24年10月10日	再度女性宅で捕獲作業を実施。作業の終盤に市環境政策課職員も現場に行く。女性と夫とも話をすることができ、捕獲については了承を得ることが出来た。8匹について手術を実施した。また、捕獲の際に女性宅内で4匹の子猫を発見したため、里親を募集するために、代表宅に引き取られることとなった。
平成24年10月11日	包括職員より、1匹の猫を捕獲し、手術したとの連絡があった。
平成24年11月1日	女性宅・魚屋周辺で野良猫の捕獲を実施。（平塚のら猫を減らす会）10匹の野良猫を捕獲し、手術を実施した。
～今後について～	平成24年12月現在で合計25匹の猫を実施した。まだ、手術未実施の猫がいるとの情報もあり、今後も捕獲作業が必要となる。また、手術までは完了したものの、手術実施した猫の管理等の課題が残っているため、再度自治会との打ち合わせを調整しなければならない。

<その他>

平成23年1月20日 SCNより取材を受ける。後日「ひらつか〜な」にて協働事業に関する番組が放映される。

平成24年11月22日 平塚総合公園内にてウンチパトロールを平塚のら猫を減らす会会員で実施する。(総合公園は以前より会が野良猫を管理している場所である。)

平成24年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額（円）	決算額（円）	増減額（円）	具体的な内容（増減理由、収入内容・単価・数量等）
	市の支出	135,000	120,000	△15,000	市主催の講演会を開催しなかったため
	団体の支出	95,000	85,250	△9,750	団体主催の講演会を開催しなかったため
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 230,000	B 205,250	B－A △24,750	
② 支 出	項 目	予算額（円）	決算額（円）	増減額（円）	具体的な内容（増減理由、支出内容・単価・数量等）
	人件費	120,000 (120,000)	125,250 円 (120,000)	5,250 円	別添のとおり
	講演会講師料	30,000 (15,000)	0 (0)	△30,000 円	講演会を開催しなかったため、決算額は0円となる。
	その他経費	80,000 (0)	80,000 (0)	0	広報・印刷費 60,000円 ＜内訳＞ （地域への説明会時に配付する資料印刷代） 30ページ×20部×10地区×10円 その他（消耗品費等） 20,000円 ＜内訳＞ 印刷用紙代 3,000円 猫寄せ用マタタビ代 700円×10個＝ 7,000円 プランター（猫トイレ） 1,000円×10個＝10,000円
	支出合計	C 230,000 (135,000)	D 205,250 (120,000)	D－C △24,750 円	
③	収支決算額 B 205,250 円 － D 205,250 円 ＝ 0 円				【備考】

※支出額の（ ）内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚のら猫を減らす会	■団体 □行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	「地域猫」協働事業も2年目を迎え、現場で地域の問題を共有して行くなかで「猫問題は地域の人の問題」「まちづくり」を進める事の大切さを共有し、動物愛護法啓発の重要性が確認できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	地域で起きるトラブル等は、行政の説明に住民が聞く耳を持ち、団体の説得より行政の住民へ果たす役割が大きく、協働事業の効果が大きかった。 また団体の待つ10年来の経験が動物の生態等からの問題解決の促進には不可欠であった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	地域が抱えるのら猫問題はそれぞれ異なるので、必然的に地域ごとに打ち合わせや協議を重ねた。 また、必要に応じ環境政策課と会との話し合いを行い、問題点の整理検討を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	行政、団体共にお互いに主張し合うような事もなく、重ねてきた2年の経験から「対等な立場」を尊重できた。 地域の課題解決に行政の役割の大切さが分かった。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	「のら猫」問題は人の問題との視点から捉えて、団体のみでは推進出来ない事が多々あり、「相互効果」が大きかった。 「地域猫」事業の進展と共に、地域毎に市議員5~6名が協議に関わり、地域が猫以外にも社会の変化・高齢化等の進展から様々な課題も発見した。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→ B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	目標地域数を達成できない、又は問題地域を「地域猫」に進められないのは地域からの提言を「待つ」受け身の活動にあると考える。地域も事業も一歩踏み出せない地域の難しさがあるが、目的とする、「まちづくり」への広がり進めた。考えるにそんな簡単な事業ではないと言う事を実感した。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	この事業で大勢の人が動いた事になるが、経費に換算できない人的サービスが有った。昼夜を問わない活動が要求される現場からは「費用対効果」を計る事は難しい。捕獲・動物病院搬送・手術・元に戻す。このサイクルで何百匹も対応していく活動経費は、事業の目標意識のみ。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など猫は縄張りで生息するので、繁殖地域からは高い評価を得た。「地域猫」として協働した直近地域（金目・田村・馬入・その他グループ地区）等の被害が軽減した地域関係者関わった議員等からも軽視できない問題と評価を得ている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	潜在的にのら猫問題に悩む地域が役所との協働事業で公になり問題が顕在化した。
団体のメリット	市との協働により団体の信頼度が増した、会メンバーの意識向上と活性化になった。団体のみでは成し得ない地域への動物愛護法の啓発になった。広く問題提起になる。
市のメリット	団体の持つ専門性が役立った、地域が抱える課題の発見、協働する事で行政の役割を認識した、市民団体を活用することで市民サービスにつながる。

(4) その他、課題やその改善方法など

「地域猫」の目的推進の為の改善方法として、「受け身」の姿勢から一歩踏み出し問題地域へ、「のら猫問題トラブル解決に協力を。」のチラシを配布の積極的な働きかけとして「のら猫パトロール」活動を実施する。猫問題を顕在化して行くお手伝いを通してまちづくりを進め、25年度の協働事業を強力に推進していく、尚実施中のウンチパトロールも継続して行く。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

☐その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

のら猫問題は短年度で解決できない地域コミュニティの複雑な要素があり、まちづくりを通じた人の問題としての取り組みが求められる、のら猫問題は全国的な課題で、平塚市の協働事業は近隣の市町の関心を得るところまで来ている。3年間積み上げた「地域猫」ノウハウを更に発展させながらまちづくりの目的に沿う地域活動を行政と共に継続する為今後も検討していくために、会も更なる研鑽をして、持っているノウハウを行政に役立てる努力をする。
--

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	「地域猫」への取り組み	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	「野良猫を減らすのではなく、野良猫のトラブルを減らす」という統一した目標・目的については、市民団体だけでなく、市職員も交え、勉強会や研修、協議を重ねた結果、市民団体の会員にも普及はできたと考えている。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	野良猫のトラブルがある地域に積極的に出向き、協議などを行った。地域住民間との調整を行政が行い、市民団体が機動力を最大限生かし、地域住民へのアドバイスや、不妊去勢手術のための猫の捕獲、公園などのウンチパトロールなど、現場活動を積極的に行った。 特に今年度は市民団体が積極的に地域猫の説明や調整をしてくれたおかげで、スムーズに話が進んだ地域もあった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	「地域猫」活動は地域によって千差万別であり、マニュアルと言うものが存在しない。Aの地域でうまくいくケースがBの地域では全く機能しないケースも珍しくなく、協議については、数多く行ない、臨機応変にお互いが対応できるよう配慮した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	「行政しかできないこと」、「市民団体でないとできないこと」を双方が理解し、お互いを補うことを常に意識して活動した。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	野良猫のトラブルについては本来行政が対応しなければならないが、今までは人員的にも時間的にも不可能であった。一方、市民団体単独だと地域からの信頼を得るのに時間がかかる場合が多く、今回の協働事業で双方の問題点が解決できた。また、他の協働事業へのモデルにもなりつつあると感じている。市民団体の会員もそれぞれが自己啓発や研究会を重ねているため、着実にこの事業に携わる双方のレベルアップが見受けられる。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	2	目標は10地区を選定し、地域猫活動を行う予定であったが、結果としては数地区にとどまった。しかしながら、野良猫に関するトラブルを減らせた地区もあり、目的については一部達成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	行政からの支出を極力抑えるように市民団体が配慮してくれたため、少ない経費で活動することができた。不妊・去勢手術用の捕獲器の購入もでき、次年度以降活用していきたい。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 目的が達成された地域においては、当初怒っていた市民から感謝の言葉をいただいたケースもあり、ある程度の評価は得られたと感じる。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	野良猫のフン等の被害を軽減することができた。
団体の メリット	市との協働事業と言うこともあり、地域からの信頼も得やすくなり、地域猫活動の普及・推進が素早くできるようになった。
市の メリット	野良猫に関する苦情で何度も現場に通っていたが、トラブルが減少することにより、日常の事務量が大幅に減少した。

(4) その他、課題やその改善方法など

「地域猫」という言葉、そして内容についてはまだ周知が足りておらず、地域住民への説明で時間がかかってしまい、事業が思うように進んでいない要因の一つであると考えている。今後は、ホームページをはじめ、いろいろな広報媒体を活用したり、自治会連合会への説明会の参加、トラブルが起きている地域へのリーフレットのポスティングなど、積極的に取り組んで少しでも普及啓発を図りたい。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐行政が単独で実施

☐その他（

☐休止または終了

☐団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成25年度で市民提案型協働事業は終了するが、野良猫に関するトラブルは数年で全くなくなるわけではなく、今後も提案型とは違った形で行政と市民団体が手を取り合ってこの事業を進めていきたいと考えている。地域猫事業はまだ始まったばかりである。10年以上活動を行っている「平塚のら猫を減らす会」のノウハウを行政も学びつつ、少しでも野良猫に関するトラブルの減少に努めていきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	平塚のら猫を減らす会	担当課名	環境政策課
事 業 名	「地域猫」への取り組み		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

協働事業とは、「一つの目的に市民団体と行政が手を取り合って進む活動」である。今年度についても、負担を双方が押し付けるのではなく、分け合うことで双方の業務を軽減させることに重点をおいた。その結果、市民団体と行政が仲良く一年を通じて地域猫活動を実施できたことは大きな成果である。また、協働事業のモデルとしてこの事業が近付いたものと考えている。今後においても、より地域猫活動推進のため、この良好な関係を進化させ、よりよい事業にしたい。今年度は、団体が積極的に地域に赴いて調整等もしてくれたため、より行政の負担が減る地域も見受けられた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

当初の目的として、10地区で地域猫活動を行う予定であったが、今年度も、前年度同様に数地区にとどまってしまった。これは、地域によって野良猫に対する問題のとらえ方が違い、同時にコミュニティについても千差万別で、進め方が同一の方法では通用しなかったことが原因である。また、案件が野良猫問題だけでなく、福祉分野に関係することもあり、周辺住民との打ち合わせに時間が割かれてしまった。そんな困難な状況の中、市民団体は諦めずに行動をしてくれたおかげで、数十頭の不妊・去勢手術を実施できた。そのほかにも、ウンチパトロールの実施など、地道な作業も惜しみなく対応してくれた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など

取組みを始めた当初は、エサやりをしている人や市職員に対して怒りながらフン害などを訴える市民がいたが、何度も現場に通い、打ち合わせを重ね、試行錯誤しながら続けていた結果、フン害も無くなり、市民からもお礼を言われるようになった。市民はフン害が無くなり、行政は苦情が無くなり、市民団体は結果を残すことで信頼と評価を得ることになった。

猫を介したトラブルの減少により、多少なりとも地域住民同士のコミュニティもよくなったのではないかと。

(4) その他、課題やその改善方法など

地域猫活動という言葉自体を普及しきれなかったことは否めない。また、地域によっても千差万別だったため、活動を進めていくことに非常に苦労した。今後は公園などでのウンチパトロールも行政と市民団体で協力しあって実施し、普及活動に努めること、また、活動が難しくなったときに今年度同様、何度も協議を重ね、いろいろな方法を試してみることが大切である。また、平成25年度はより一層周知活動を徹底させ、地域猫に関するリーフレットを野良猫問題を抱えている住民宅にポスティングをしたり、ホームページへの掲載等も考えている。さらに、市民団体との定例会を開催し、短い期間で課題抽出や進捗状況、意見交換を図っていきたいと考えている。

（５）今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（□提案型 ■提案型以外） □休止または終了
□行政が単独で実施 □団体が単独で実施
□その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

地域猫活動は、元来動物との共生を図る事業である。今後も、動物愛護の啓発に努めていく。また、地域猫活動を通じて、野良猫のトラブルを減らすという目的のさらに奥には、「地域コミュニティの活性化」ということがある。野良猫問題を通じて、地域住民が話し合う機会をもうけ、コミュニケーションを密にすることにより、地域で何か問題が発生した時お互いが話し合い、助け合う習慣ができるためのきっかけ作りとなれば、地域猫活動は地域の発展に活かすことができると言える。平成25年度で提案型協働事業としては終了するが、今後も行政と市民団体が協働できるような方法を考え、地域猫活動を実施していきたい。

平成24年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平塚市長

団 体 名 ごみを活かす会

団体代表者 永山 寿子

印

事業担当課名 資源循環課

事業担当課長 稲毛 義博

印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業		
事業開始年度	平成23年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	85,870 円	内 訳	市の支出 80,870 円 ----- 団体の支出等 5,000 円
事業の概要	一般家庭において生ごみの自家処理が可能であることを、実技講習を通して理解を深め、実践家庭を増やすことを目的に講習会を実施する。		
具体的な実施内容	以下のとおり、生ごみの自家処理に関する講演、実技講習等を実施。実技講習の会場はすべて市民活動センター 6月10日(日) 講演「家庭で出来る生ごみの処理と活かし方」(27名) 講師 明治大学教授 藤原俊六郎氏 6月20日(水) 実技講習 コンポスター法・土穴法 (11名) 6月24日(日) 実技講習 コンポスター法・土穴法 (12名) 7月 4日(水) 市内施設見学 (10名) 7月11日(水) 実技講習 プランター法・EM菌法・発砲スチロール法 (18名) 7月15日(日) 実技講習 プランター法・EM菌法・発砲スチロール法 (12名) 9月 5日(水) 実技講習 段ボール法・バチルス菌法・電動生ごみ処理機法 (10名) 9月 9日(日) 実技講習 段ボール法・バチルス菌法・電動生ごみ処理機法 (8名) 11月7日(水) 報告会 (15名) まとめと意見交換		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成24年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	115,200	80,870	-34,330	事務の効率化や資料作成費の削減により負担金を軽減
	団体の支出	5,000	5,000	0	会場設営準備として支出
	事業収入				
② 支 出	収入合計	A 120,200	B 85,870	B - A -34,330	
	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	謝礼	60,000 (60,000)	59,995 (59,995)	-5	講演会講師謝礼@30,000×1回=30,000 (交通費込み) →生ごみ処理における微生物の役割について講演 その他講師謝礼@4,285×7名=29,995 →生ごみの自家処理方法に関する実技講習
	人件費	5,000 (0)	5,000 (0)	0	会場設営準備@500×10名=5,000
	事務用品費	29,600 (29,600)	14,745 (14,745)	-14,855	テキスト作成費の単価削減等により削減 用紙代 105 印刷代 (コピー・印刷機使用料含む) 7,840 テキスト作成費@200×34冊=6,800
③	通信運搬費	25,600 (25,600)	6,130 (6,130)	-19,470	効率的な移動及び資料運搬により駐車代等を削減 自家用車利用によるガソリン代・駐車料金等 3,100 資料送付代 FAX50+郵送 2,980=3,030
		()	()		
	支出合計	C 120,200 (115,200)	D 85,870 (80,870)	D - C -34,330	
③	収支決算額 B 85,870 円 - D 85,870 円 = 0 円				【備考】 平成24年度ごみを活かす会負担金戻入金額 34,325 円

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ごみを活かす会	■団体 □行政
事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	

※評価点（５段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	「協働の視点」から見ると、市民団体と行政の協働の目的は十分に共有された。具体的には下記を参照されたい。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	行政は市の広報の活用、見学会における市のバスの利活用等で分担し、市民団体は講習会の開催準備、講師の手配、講習会当日の運営、資料の作成等を分担し、相互の役割分担は適切であった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	市民活動団体の運営委員会には必要に応じて市の担当者が出席し、あるいは必要があれば市民活動団体から市役所に出向いて協議を行う等、問題の共有は十分果たすことができました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	行政、市民団体どちらもお互いにどちらか一方が上に立って命令・指導するようなことはなく、対等な立場で協議を進めながら事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	協働事業を開始する前の数年間は市民団体が単独で事業を実施してきたが、その時期と比べみて、「相互効果、波及効果」とも、飛躍的に高まった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	生ごみ処理相談員の養成は5名の目標に対し1名に留まったのは残念であったが、生ごみ処理実践者は43名（目標は20名）の登録を得ることができた。 生ごみの自家処理について、市民に広く普及するという今後の課題を残した。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	この事業にかかった現金の経費はわずかなものであり、人件費を計上すれば相当の金額になる。経費をどの範囲で計上するかによって評価は異なってくる。本来、長期の効果を見据えた事業であり、短期的な費用対効果の評価を求めることに違和感がある。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など アンケートの結果は概ね満足を得られたが、内容によってはわかりにくかったとか、ゆっくり進めてほしいとの少数意見もあり、反省点として今後に活かしたい。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	実演を伴うことでより確実に理解が深まり、それぞれの事情に合った方法を学べた。 経験者から対処方法を学ぶこともできたので、これからのレベルアップと意欲につながった。
団体の メリット	ごみを活かす会が長年培ってきた各種の生ごみの自家処理方法に関心のある市民に伝えることによって、逆に市民から多くの知恵をもらい有効だった。
市の メリット	ごみの減量化、資源化という目標に向け、問題意識を持つ市民が少しずつではあれ 増えていること。

(4) その他、課題やその改善方法など

講習会参加者数がまだまだ少ない。広報などを強化し、地域での講習会を各地で開催する等、関心のある市民を増やしたい。

(5) 今後の具体的な展開

☒ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☒ 提案型以外）
☐ 行政が単独で実施
☐ その他（

☐ 休止または終了
☐ 団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市民団体としては各種イベントでの広報、各地自治会・市民団体主催の講習会などを開催する。
行政としても3年間の協働事業が終了した後、生ごみ自家処理をどのように市民に普及する事業をどう継続すればいいのかを検討してほしい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	資源循環課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業	

※評価点（５段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	様々な生ごみの自家処理方法を通じて、燃せるごみの減量化、資源化を図っていくという目的は共有できました。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	市民活動団体は生ごみの自家処理のノウハウを、市は申込み受付や広報を担当する等、それぞれの強みを活かすことができました。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	昨年度のアンケート結果を踏まえ、同一講座を平日休日の両日で開催する等の改善を協議により決定しました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	互いにとっての強みを理解した上で、責任と役割を担うことができました。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	市民活動団体が長年培われてきた生ごみの自家処理に関するノウハウと、市のごみの減量・資源化施策が結びつき、各家庭で実践可能な取組が徐々に広がっています。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	生ごみ処理相談員は1名の養成に留まりましたが（目標は5名）、生ごみ処理実践者は43名（目標は20名）の登録を得ることができました。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	今後、生ごみ処理相談員及び実践者となった市民が生ごみの自家処理について各地域で普及啓発することで費用対効果は得られると考えます。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 参加者からのアンケート結果からは、実践的な講座であったことから概ね高い満足度が得られました。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	自分のライフスタイルに合った生ごみの自家処理講座に参加ができ、経験者からアドバイスを受け、活用する機会を得ました。
団体のメリット	市民活動団体が長年培ってきた生ごみの自家処理に関する経験やノウハウを講座の中で発揮ができました。
市のメリット	ごみの減量化、資源化という目標に向け、市民と市が一体となり活動できています。

(4) その他、課題やその改善方法など

24年度は市のホームページに講座内容（生ごみの自家処理の方法）を掲出し、実際に講座に足を運ぶことができない市民に対しても参考とすることができる機会を設けました。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☐提案型 ☒提案型以外）

☐行政が単独で実施

☐その他（

☐休止または終了

☐団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

平成25年度は市民提案型協働事業としては3年目になりますので事業としては終了しますが、本事業を通じて養成された「生ごみ自家処理相談員」による、生ごみの自家処理を行う市民を増やすための取組については、継続的に実施できるよう検討したいです。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ごみを活かす会	担当課名	循環型社会推進課 (旧資源循環課)
事 業 名	一般家庭での生ごみ自家処理推進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・事業の目的、目標を達成するため、団体及び市はそれぞれの強みをいかしながら、活動の充実に取り組みました。
- ・事業に参加いただく市民を増やすため、様々な媒体を通じ、事業の意義や内容等をアピールすることが必要だと感じます。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・市民が参加しやすい講座とするため、今年度は2つの点を変更しました。1つは平日と休日の両日開催です。もう1つは、ライフスタイルに応じて講座を選択できる方法にしました。結果、イベントにおけるPRも手伝い、平成24年度は43名の生ごみ処理実践者の登録を得ることが出来ました。(目標は20名)。
- ・参加者からは「小バエが出なくなった」「ごみ量が減った」といった声を聴くことが出来ました。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・市民：生ごみの自家処理を行う意義を理解できました。同じように生ごみの自家処理を実践している市民と交流することで新たに意欲を持つようになりました。
- ・団体：市と協働することで、これまで培ってきた生ごみの自家処理に対する自信を持つようになりました。
- ・市：ごみの減量化、資源化を進める方策の1つとして、生ごみの自家処理に関するノウハウを持つ団体と協働することは、市民の動機づけを高めるために有益であると考えます。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・市民の関心を得るため、引き続き講座の内容や広報を工夫することが必要です。
例) 生ごみの自家処理を始めるにあたり、未経験者の意欲を引き出すように講義をわかりやすくするとともに市民の環境意識の向上を目指す。
市の施策や地球環境問題との関連性をアピールする。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 (

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・協働事業終了後もごみの減量化、資源化を推進していくため、生ごみ自家処理相談員と協働しながら、生ごみの自家処理を行う市民を支援する仕組みづくりを検討していきます。

平成24年度実施 協働事業報告書

(あて先)
平 塚 市 長

団 体 名	土屋里地里山再生グループ
団体代表者	原 安雄 印
事業担当課名	環境政策課
事業担当課長	安藤 政俊 印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)		
事業開始年度	平成 23 年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	977,593 円	内 訳	市 の 支 出 228,100 円 ----- 団体の支出等 749,493 円
事業の概要	グランドワークの推進による里地里山の保全、再生及び活用を通じて、地域環境再生と共生社会の実現を図るため、平成23年度には里山保全等活動に欠く事のできない参加者用通路や駐車場の整備、仮設トイレや仮設導水パイプの設置を行なったが、今年度はそれを活かし、ブルーベリーの植栽をはじめ料理教室や生物観察会など市民参加型の各種イベントを行ない、市民に里山の必要性をPRして理解を深めてもらうとともに、憩いの場所を提供した。また、植栽したブルーベリーについては、今後団体が自立する上で、貴重な自主財源になることも期待している。		
具体的な実施内容	4月 準備（ブルーベリー苗木の発注、植樹予定地の整備等） 4月 広報活動 4月～5月 市民とのブルーベリー苗木の植樹 6月～7月 料理教室（クワジャム、シソジュースほか） 6月～7月 広報活動 6月～7月 里の生物観察会、特産品づくり研究会 8月～9月 夏休み農業体験会 8月 小学生生き物調査会（東海大学藤吉研究室と協働） 9月～10月 農業者育成と環境教育セミナー 9月～10月 広報活動 10月 市へ中間報告書の提出 10月～11月 キノコ狩り 11月 里山文化祭と収穫祭 11月～12月 広報活動 12月～1月 みかん狩り 1月～2月 市へ実績報告書作成、提出 2月 土屋公民館まつり参加 通年 ホームページ掲載、ブルーベリー苗木の管理		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成 24 年度実施協働事業 決算報告書

96

① 収入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	228, 100	228, 100	0	
	団体の支出	25, 000	25, 000	0	会費 15, 000 円 (500 円×30 名) 寄付 10, 000 円 (5, 000×2 名)
	事業収入	0	15, 493	15, 493	セリ、タケノコ等販売 15, 493 円
	県補助金	709, 000	709, 000	0	神奈川県里地里山保全等促進事業に基づく補助金
	収入合計	A 962, 100	B 977, 593	B - A 15, 493	
② 支出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	資材購入費	173, 000 (173, 000)	155, 040 (155, 040)	△17, 960	ブルーベリー苗購入費 (合計 200 本)
	人件費	35, 600 (35, 600)	35, 600 (35, 600)	0	有償ボランティア (会員) 16, 000 円 ※人件費明細書参照 農業指導者謝礼 (会員) 9, 600 円※人件費明細書参照 企画・報告書等執筆謝礼 (外部) 10, 000 円
	事務費	10, 000 (10, 000)	41, 083 (27, 960)	31, 083	電車、バス等
	交流会費	16, 500 (0)	16, 500 (0)	0	里山整備時の弁当、お茶代等
	通信費	10, 000 (9, 500)	12, 370 (9, 500)	2, 370	電話、切手、ハガキ等
	雑費・予備費	8, 000 (0)	8, 000 (0)	0	消耗品等
	里山保全・再生活動費	609, 000 (0)	609, 000 (0)	0	里山保全・再生のための活動費用 県補助金から支出
③	イベント費	100, 000 (0)	100, 000 (0)	0	体験教室等の開催 県補助金から支出
	支出合計	C 962, 100 (228, 100)	D 977, 593 (228, 100)	D - C 15, 493	
③	収支決算額 B 977, 593 円 - D 977, 593 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	土屋里地里山再生グループ	■団体 □行政
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グラウンドワークの推進)	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	共有できた。ブルーベリーの植栽は、会の自主財源を確保することも目的の一つにあったが、理解をしていただいた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	役割分担はうまくいった。今後につながることを考える。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	会の先々の活動を含めて、行政と十分な協議を行なっていた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施 できましたか。	5	対等な立場を尊重して、事業を実施できたと考えている。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	得られたと考える。例えば団体単独では難しかった、イベントに利用する農道の整備だが、環境政策課を通して農水産課と話し合うことで、スムーズに行なう事が出来た。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	出来たと考える。事業に参加した個人もさることながら、絵手紙の会等、里山エリア内での活動が始まり、喜んでいただいている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	ブルーベリーの植栽は単純な作業であったが、里山エリアの特性を話すことができたことで、ホテルの鑑賞会を今年も実施予定で進めている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	参加親子が、その後のイベントへの参加者となってきている。先に記した絵手紙の会の人たちも同様である。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	里山への理解が進み、活動への参加がとても楽しいとの声を聞いている。
団体の メリット	行政との協働活動ということで、会に対しての信頼度が増してきていると思える。
市の メリット	里山の再生と保全が進み、市民に憩いの場を提供できていると思える。

(4) その他、課題やその改善方法など

土地の利用は法的な規制があるが、団体や地主では解決できない問題もある。観光を目的とした里山特区的な考えなど、市としても里山への取り組み方を考えていただきたい。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（■提案型 □提案型以外）

□行政が単独で実施

□その他（

□休止または終了

□団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

里山での自主財源に、ブルーベリー石鹸の製作販売を決め、スーパーユニーさんの店内での販売が内定した。また、商工会議所の会員になることや、各事業者との連携も考えている。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	市民が自然と触れ合える、憩いの場所を提供するという目的を共有して進めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	適正であった。お互いの得意分野を活かしながら事業を進めることができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事業開始前、実施中に随時、団体側から経過の説明や相談等を受け、市側も要望等を伝えていくことで、お互い協議しながら行うことができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	「役割分担」に沿って事業を進め、対等な立場を尊重して事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	市単独では実施することが難しい事業であったが、地元の理解が得やすく、里山整備のノウハウも豊富に持っている団体と協働することで、実施できた事業であった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	達成することができた。多くのイベントを実施し、子ども達や地域の住民に、里山に対する理解を深めることができたと考えている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	ブルーベリーの植栽を行なったことで、今年度のイベントの実施だけではなく、今後団体が自立して継続的に里山保全活動を行なっていく上で、貴重な収入源になると思われることから、今回の事業では非常に高い費用対効果を得ることができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 団体が主催するイベントに多くの市民が参加しており、地域のこども会を巻き込んだ活動になっていることから、満足度は十分に図られていると考えている。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	ブルーベリーの植樹などのイベントが里山で行われていることにより、地域の憩いの場となり、里山に対して親しみが増した。
団体の メリット	イベントを数多く開催することにより、団体の活動に対して市民の理解が進んだ。
市の メリット	市が目指す、市民が自然と触れ合える憩いの場を作ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

イベントは打合せや報告を受けるだけではなく、積極的に担当職員が参加し、団体と力を合わせて行なってきたため、同じ目線で事業を行なう事が出来たと感じている。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（■提案型 □提案型以外）

□行政が単独で実施

□その他（

□休止または終了

□団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

25年度は引き続き、ブルーベリーの植栽を行ない、より安定的な里山の保全と、自主財源となるブルーベリーの収穫を目指す。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	土屋里地里山再生グループ	担当課名	環境政策課
事 業 名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立 (グランドワークの推進)		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事前に十分な協議を行ない、事業実施中にも随時協議を行なう事で、当初の目的やお互いの役割を最後まで維持しながら事業を完了することができた。団体と市、双方が長所を活かしながら協力することで、成し遂げることができた事業であったと感じている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

ブルーベリーの植栽を行ない、多くの市民に参加してもらうことができた。ブルーベリーというきっかけを作り、里山に足を運んでもらうことで、里山を知ってもらうことができたと考えられる。今後、植栽に参加した市民が団体のイベントに再度参加し、さらに里山への理解が深まることを期待している。また、ブルーベリーについては今後成長し、団体が公益的な活動をする際の貴重な自主財源となることも期待しているので、里山保全活動とともに世話をしていきたい、有意義に利用していきたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民に対しては里山がより居心地のよい、憩いの場になってきたと考えられる。団体のイベントのリピーターになる方も出てきているので、里山への理解が進んでいると感じている。また、団体と市の間でもこまめに連絡を取り合い、イベントへの参加も行なっているため、市民からの信頼感も高まっていると思われる。

(4) その他、課題やその改善方法など

土地の利用については法律の制約も多く、団体単独で解決が難しい問題もあるため、市と協力して解決策を検討した。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（☒提案型 ☐提案型以外）

☐休止または終了

☐行政が単独で実施

☐団体が単独で実施

☐その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

25 年度の協働事業も引き続きブルーベリー苗の植栽を含めたイベント活動を開催し、市民に対して里山のPRを行なうとともに、憩いの場を提供していきたい。24 年度に引き続きブルーベリーの植栽を行なうことで、苗の本数も増えることから、より安定的なブルーベリーの収穫が期待できる。これは団体の自立を大きく助けることができると思われる。

平成 24 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 ひらつか防災まちづくりの会

団体代表者 篠原 憲一 印

事業担当課名 防災危機管理課

事業担当課長 二見 博幸 印

平成24年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行		
事業開始年度	平成 23 年～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
事業費	449,522 円	内 訳	市 の 支 出 433,000 円 ----- 団体の支出等 16,522 円
事業の概要	災害による被害を減らすために家庭、地域の単位で取り組みをしていくこと（自助・共助）の必要性が市民にも認識され始めている。地域の防災力の向上を目標として、地域で防災の要となる人材を養成し、その人が中心となって地域コミュニティづくりや、自主防災の訓練など運営できるよう研修を行う。また地域での様々な防災の取り組みを防災ニュースを通じて情報提供したり、懇談会を市民同士の情報交換の場として提供する。		
具体的な 実施内容 実施年月日、実施 内容、参加者等 をご記入ください。	○地域防災活動者育成研修初級編（対象：各自主防災組織から1名ずつ推薦） 第1回6月30日（土）講話「遠野市の沿岸被災地後方支援」「発災初期における被災地避難所の状況と自主防災のあり方について」 参加者 169人 第3回9月22日（土）避難所運営ゲーム 参加者 141人 （第2回は市の単独事業として実施） ○地域防災活動者育成研修中級編「防災まちあるき」 （対象：初級修了者のうち希望者） 第1回11月17日（土）講話「防災まちづくりの基本」、フィールドワークオリエンテーション 参加者 24人 第2回12月15日（土）フィールドワーク、講話「防災まちあるきのポイント」 参加者 27人 第3回1月19日（土）フィールドワーク、マップ作成 参加者 22人 第4回2月2日（土）講話「まち歩きによる防災マップの作成と活用」「防災マップ作成マニュアル」「DIG（災害時図上訓練）による自主防災組織の強化」、ワークショップ 参加者 20人 ○防災懇談会：テーマ「集合住宅の防災」（対象：集合住宅単位自治会） 第1回7月14日（土）参加者 22人、第2回12月2日（日）参加者 24人 ○防災ニュース発行（配布先：各自治会長、その他、公民館等配架） 平成24年10月号 4,000部発行、平成25年3月号 4,000部発行		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成24年度実施協働事業 決算報告書

98

① 収入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	433,000	433,000	0	①講師謝礼 120,000 円 ②負担金 313,000 円
	団体の支出	30,000	16,522	-13,478	ファシリテーターの弁当代 削減
	事業収入				
	収入合計	A 463,000	B 449,522	B-A -13,478	
② 支出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	講師謝礼	120,000 (120,000)	120,000 (120,000)	0	地域防災活動者育成研修講師謝礼 (初級編@50,000 円×1 人、 中級編 @30,000 円×1 人、@40,000 円×1 人)
	人件費	116,000 (116,000)	116,000 (116,000)	0	9/22 初級 HUG ファシリテータ 小計 61,000 円 内訳 @1,000×4h×14 人、@1,000×3h×1 人、@1,000×2h×1 人 、 中級研修 WS 小計 55,000 円 12/15 : @1,000×2h×6 人、1/19 : @1,000×3h×5 人、2/2 : @1,000×4h×7 人
	人件費&委託料	144,000 (144,000)	83,200 (83,200)	-60,800	企画・取材・調整 44,800 円 防災懇談会 企画・運営 38,400 円 (ニュース発行を印刷費へ変更)
	事務用品費	16,800 (16,800)	14,945 (14,800)	-1,855	コピー代 1,980 円、文具代 1,351 円、インク代 5,160 円、紙代 6,454 円
	食糧費	30,000 (0)	14,852 (0)	-15,148	ファシリテータ弁当代 9,000 円、防災懇談会飲み物代 3,352 円、 中級研修第 1 回講師手土産代 2,500 円
	印刷費	5,700 (5,700)	69,940 (69,000)	64,240	資料印刷 (センター) 7,590 円、 防災ニュース発行印刷編集費合計 62,350 円
	通信費	12,500 (12,500)	12,165 (12,000)	-335	往復はがき 11,000 円、郵送費 850 円、振込手数料 315 円
	交通費	18,000 (18,000)	18,420 (18,000)	420	中級研修第 1 回講師打合せ 7,380 円、中級研修講師打合せ 11,040 円
	支出合計	C 463,000 (433,000)	D 449,522 (433,000)	D-C -13,478	
③	収支決算額 B 449,522 円 - D 449,522 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか防災まちづくりの会	■団体 □行政
事業名	地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	地域防災活動者育成研修（初級・中級）、集合住宅自主防災懇談会について、レジュメの打ち合わせができ、受講者の満足が得られるものを提供できた。防災ニュースにおいても、細部の校正まで窓口で詳細を詰めることができた。ただ行政側も限られた時間の中なので、打ち合わせが十分できたとは言い難いところもある。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	3	概ね「協働事業 合意によるルール」の役割分担をすることができた。地域防災活動者育成研修第1回の講師が遠野市長に決定したこともあり、行政側の接客対応となり、役割分担を修正する必要が生じた。また中級応募の仕方に対し若干の食い違いが生じた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	市民団体側も窓口一元化を決め、行政と打ち合わせの時間調整等を行って実施したが、防災ニュースについては、表現藩守の仕方や、内容についての打ち合わせに時間配分ができず、タイトな時間配分になった。地域防災活動者研修や、防災懇談会については早めの打ち合わせができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	地域防災活動者研修・防災懇談会については企画運営について、団体にまかす、自治体向け文書発行については、ひな形の提示、会場の手配は行政が行うなど、決められた役割で推移できた。防災ニュースについても、行政の記事を入れることなど、協働で発行できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	協働事業の対象者が、自治会や自主防災会であり、行政との協働でないと、なかなか理解や信頼を得られないので、協働事業をすることにより、少しずつ団体への信頼をしていただけるようになった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	地域防災活動者研修では 40 名の募集に対し、28 名の受講者だったが、初級・中級とも成功した。また集合住宅防災懇談会は共通の悩みを共有することで、自らの自主防災活動に役立つ事例など協議できてよかったという声も聞かれた。防災ニュース 2 回の発行を含め、すべての事業が完了できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	東日本大震災時沿岸被災地後方支援を即時に実施した遠野市長をお呼びし、「日ごろの訓練がいかに大事か」を講演いただき受講者に喜んでもらえた。また中級においても、東大の加藤教授に防災の基本をお話しいただき、自主防災についての考え方を見直す機会が得られ、費用対効果は十分発揮できた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 （受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 地域防災活動者育成研修初級・中級、集合住宅防災懇談会ともに参加者から好感を得られている。また防災ニュースについても自治会の方々から発行を続けてほしいという声が上がっている。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	自主防災会の人々が力をつけることで、自分たちのまちを災害から強いまちにすることができる。
団体の メリット	行政と協働することで、自治体への団体の信用が得られ、いろいろな懇談会がやりやすかった。
市の メリット	自主防災組織の人材育成の一端を団体に任せることで、多様な知識を自主防災組織の人に与えることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

防砂ニュースの発行に対し、前年度大幅に遅れたことを反省し、今年度は予定の 2 回発行をスケジュール管理し、窓口の一元化で対応したが、行政との協議時間の関係で 9 月の発行を 10 月にせざるを得なかった。しかし 3 月発行分は、お互いのタイトなスケジュールを窓口で調整し合い無事発行できた。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）
☐ 行政が単独で実施
☐ その他（

☒ 休止または終了
☐ 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

防災まち歩きについては、自主防災会の要請によりお手伝いを実施していく。集合住宅防災懇談会や、自主防災懇談会も自主事業として実施していきたい。防災ニュースの発行はお金がかかるが、なるべく発行できるようにしていきたい。自主財源は、会費およびニュースの有料配布など考えていく。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	防災危機管理課	☐ 団体 ☒ 行政
事業名	地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	3	地域防災を推進するための人づくりという目的を共有し、そのための事業を実施できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	3	当初の案のとおりおおむね適正に役割分担ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	3	今年度は、団体側、行政側の双方でお互いに意見を統一して両者の協議に臨むという約束ができていたため、おおむね協議ができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	2	詳細の企画案を練る段階で十分なすり合わせをする時間的余裕がなかったため、行政が団体の企画素案を審査・承認するかたちになり、協働という観点からの対等な立場が失われがちになった。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	3	双方のもつネットワークが少しずつ重なってきて、地域における人づくりが進みやすい環境も一部できてきた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	地域防災活動者育成研修においては、初級編で実施した災害対応ゲームを自治会の訓練に取り入れるなどの動きも確認できた。また、地域で防災マップを独自に作成したり、その他独自の取り組みをする自主防災組織が出てきた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	団体の市民目線での講師選定により、市民のニーズに沿い、かつさまざまな視点からの講話が提供できた。 きめ細かい事前準備により参加者の満足度の高いワークショップが開催できた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など アンケートを実施し、参加者からは満足感が得られたとの回答が多かった。 防災ニュース（10月号）は、手に取ってくださる市民が多く、おおむね半年以内で発行部数すべてを配布した。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	地域防災、自助、共助を考える取り掛かりとなり、また、ほかの自主防災組織における独自の取り組みなどを知る手掛かりとなった。
団体の メリット	地域防災に取り組む市民のニーズの掘り起こしにより、きめ細かな啓発活動への活動指針が確認できた。
市の メリット	初めて防災活動に触れる市民から、実際に携わっている市民まで、さまざまな立場の市民に対し、いろいろな視点からの研修・懇談会が実施できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

一部、団体内での意見調整ができずに行政の判断に委ねられる案件があり、それが度重なることにより、対等な立場で協働事業を実施しているという認識にずれ、あるいは不満感が生じてくるがあった。

(5) 今後の具体的な展開

☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外）

☒ 休止または終了

☐ 行政が単独で実施

☐ 団体が単独で実施

☐ その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市民が自発・具体的に防災・減災に取り組むことが必須となっている現在、広く啓発するだけでなく防災・減災を地域に根付かせていくことを次の目標とし、より具体的な訓練や研修を実施していくため、24年度の初級研修で実施した「避難所運営ゲーム」を25年度以降各避難所運営委員会単位で実施していく。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか防災まちづくりの会	担当課名	防災危機管理課
事 業 名	地域防災活動者育成研修、防災懇談会及び防災ニュース発行		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

最終的な目的は、事前の対策や準備により災害時の被害を最小限にとどめるために地域で取り組みをしていく人材の育成ということだったが、協議していく中で団体、行政の双方で根本的な対象がずれてきていた。そのずれが事業の実施のひとつひとつに影響を及ぼし、協働とは言いながらも行政が後追いで事業の修正をかけるという図式ができてしまい、団体側に不満や不信感を抱かせてしまった。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体がその専門性を生かしながらも市民目線での講師・テーマ等の選定を行ったことにより、市民のニーズに沿った事業を実施することができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

いまだ各地域の自主防災組織における防災・減災の取組みは混とんとしており、「このままの体制では災害発生時に対応できない、自主防災が機能しない」といった危惧をもちながらも新たな取組みに取り掛かることができないという相談を受けることがある。地域では、取組みの方法や新たな取組みを模索している。そうした地域に対し、少しずつではあるが他の地域の取組みの紹介や、方法の紹介をすることで、地域同士のつながりや、市民のニーズの掘り起こしにつなげることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

事業の企画の段階で団体、行政がお互い納得できるまでの協議ができたかどうかという点が課題である。また、納得できない場合も目的に沿った事業を実施するために折り合いをつけることが必要であったが、事業の実施に迫られ、折り合いをつける努力をする前に行政が指導するというかたちで実施せざるをえなかったことがあった。本来の協働に立ち返るには、双方が目的を果たすための最良の方法を限られた時間内で協議していくことの徹底が必要だと考える。

(5) 今後の具体的な展開

- ☐ 今後も双方で実施（☐ 提案型 ☐ 提案型以外） ☒ 休止または終了
☐ 行政が単独で実施 ☐ 団体が単独で実施
☐ その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

研修については、市民が自発・具体的に防災・減災に取り組むことが必須となっている現在、広く啓発するだけでなく防災・減災を地域に根付かせていくことを次の目標とし、より具体的な訓練や研修を実施していくため、初級研修で実施した「避難所運営ゲーム」を避難所運営委員会単位で実施していく。

防災懇談会・防災ニュースの発行に関しては、今後もこれまでの協働事業の実施のなかで団体が獲得した新たなネットワークも活用しつつ、団体が単独で実施していく。

関連事業にも ご参加ください！

協働事業・市民活動に関連する次の事業にも、皆様、ぜひご参加ください。

■ 新規登録団体歓迎交流会 5月17日（金）18：00～20：00

自分たちの活動をアピールし、他団体と連携していきましょう！

※新規登録団体以外の団体の参加も大歓迎です。一緒に新規団体を歓迎しましょう！

※市民活動センターの支援事業や制度の説明なども行います。

■ 市民提案型・行政提案型協働事業意見交換会 6月15日（土）14：00～

平成26年度実施の市民提案型協働事業に応募した市民活動団体、行政提案型協働事業のテーマを提案した行政担当課が事業の企画案をプレゼンテーションし、団体と事業担当課が意見交換を行います。

※市民提案型協働事業の募集期間：4月20日（金）～5月21日（月）

※協働事業提案書の提出期限（市民提案型・行政提案型共通）：8月19日（月）

■ 市民活動センターまつり （予定）9月29日（土） 10：00～15：30

市民活動団体の日頃の活動の発表や展示のほか、バザーやパフォーマンスなどを実施。

■ 市民向け講座等共催事業

市民活動団体と市民活動センターが共催して、市民向けの講座・講演会を開催します。

今年度は次の6事業を実施します。日程等は決まり次第ホームページ等でお知らせします。

- ①元気活き活きまちづくり 学んでみようコミュニティビジネス
- ②再生医療情報支援講座2 美・アンチエイジング～いつまでも血管を若々しく保ちましょう
- ③メンタルセラピーから学ぶ楽しい親子関係を築くセミナー
- ④イタリアはなぜ精神病院をなくしたのか～人間性の復活～
- ⑤講演会「市民後見人があなたを支えます」
- ⑥悪徳商法バスターズ公開講座「その投資大丈夫？」「悪質商法の手口を知る」

いずれも開催場所はひらつか市民活動センター、参加無料です。

協働事業についてのご相談・お問い合わせは、

協働推進課市民協働担当へ 21-7534